

特 228

94

昭和十六年度
表彰表

鑛山模範従業員表彰事績書

社団法人
日本鑛山協會



始



同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

三井砂川炭礦	茂尻炭礦	同	三菱美唄炭礦	空知炭礦	幌內炭礦	同	夕張炭礦	岩屋炭礦	平山炭礦	同	山ヶ野鑛山
同	採炭夫	同	住緑夫	同	堀進夫	定	支柱夫	仕上工	仕緑夫	軌道夫	製鍊工手
平賀竹次郎君	仲宗根幸得君	吉野萬龜春君	鳴海勝治君	秋山勝次郎君	高田幸吉君	宮原熊之助君	坂本榮三君	池田鐵藏君	鹽崎磯吉君	宮内長次郎君	中島三五郎君

同 同



同	ラサ島鑛山	大辻炭礦	杵島炭礦	沖ノ山炭礦	崎戸炭礦	同	赤池炭礦	三井山野炭礦	同	別子鑛山	東山鑛山	三好鑛山	日石秋田製油所
伍	工	仕	採	組	採	支	機械電氣係員	工	銘	支	同	鑛	鐵
長	長	夫	夫	長	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	長
宇良宗實君	喜屋武福永君	田原市郎君	三枝朝六君	野村末太郎君	鶴丸利吉君	濱田虎市君	西原勝次君	平島勇次郎君	高橋虎市君	三塚與次郎君	河野利八君	山口國平君	品田昌松君

鑛山模範従業員表彰事績書

日本石油株式會社柏崎鑛業所大面鑛場

職長一級鑛手 大 谷 直 二 君

一、表彰の事績概要

明治四十三年九月新潟縣刈羽郡二田村大字長嶺日本石油株式會社長嶺鑛場鑛井手として入社し爾來石油鑛井作業に従事すること實に參拾貳年有餘の永きに及び其間業務に對しては精勵恪勤資性濃厚篤實にして研究心に富み優秀なる鑛井技術を收得し臺灣西山、新津、大面各所の深層掘鑛井の主鑛として歴任し克く上長の命を遵守し常に後輩の指導誘掖して倦むことなく鑛井手中の最上級者として上下の信望極めて厚く昭和八年四月職長に拔擢せらる。又常に能率増進と災害防止に付研鑽怠らず昭和十三年二月掘鑛井セメント遮水管用逆流防止裝置の發明考案を爲し其功績顯著なり(圖面略)。尙ほ永年勤績の功を表彰せらるゝこと大正十三年以降四回に及べり。

二、履歴の概要

本籍地 新潟縣三島郡西越村字稻川五〇三番地
現住所 新潟南蒲原郡大面字北潟

日本石油株式會社大面鑛場

大 谷 直 二

明治二十年十一月二十日生

學 業

- 一、明治二十七年四月 新潟縣三島郡八平尋常小學校へ入學
- 一、明治三十一年三月 同校尋常科卒業
- 一、明治三十一年四月 新潟縣三島郡出雲崎町高等小學校ニ入學
- 一、明治三十六年三月 同校卒業

職 業

- 一、明治三十七年一月 淺野鑿井部へ入社鑿井採油ニ従事ス
- 一、明治四十年十二月 東京府下市川野砲第十七聯隊へ入營

一、明治四十二年十二月

同隊除隊

一、明治四十三年九月

日本石油株式會社長嶺鑛場へ入社、鑿井、採油ニ従事シ以後北蒲原郡、臺灣、新津、西山、大面各鑛場ニ勤務シ尙現在々職中

賞

- 一、明治四十二年 朝鮮暴徒鎮壓事件に参加其ノ功ニ依リ一時金二百圓ヲ下賜セラル
- 一、大正十三年五月 勤績十年ノ褒狀竝ニ賞品ヲ授與セラル
- 一、大正十五年五月 勤績十五年ノ褒狀竝ニ木杯一組ニ金二十圓ヲ授與セラル
- 一、昭和六年五月 勤績二十年ノ褒狀竝ニ銀杯一個ニ金三十圓ヲ授與セラル
- 一、昭和十一年五月 勤績滿二十五年ノ褒狀竝ニ銀杯一組ニ金五十圓ヲ授與セラル
- 一、昭和十三年二月 セメント遮水管用逆流防止裝置ノ考案ニ依リ表彰サレ金一百圓ヲ授與セラル

罰

一、ナ シ

一、表彰事績の概要

資性温厚自肅常に衆の模範たり。明治四十二年五月二十一日寶田石油株式會社に採用せられて年月を閲すること三十二年、克く長上の命に服し其業務に關しては注意周到、研究の念を失はず部下を督勵するに懇切、青年工を誘導するに自ら進で範を示すを以て常とせり。故に大正十年十二月推されて職長となり今日に及びて精勵倦むことなし。發明考案に依り功績賞を受くること五回、勤績精勵の故を以て新潟商工會議所より表彰せらるゝこと三回、勤績年功褒賞を受くること三回に及びたり。

發明考案に依る功績

- (イ) 大正十二年十二月十五日 海軍三號礦油B曹達洗改良及曹達廢液より低廉良質なる石鹼油の製造考案
- (ロ) 昭和九年十月三十一日 曹達處理に依る廢白土の油分回收法の發明考案
- (ハ) 昭和十三年二月十八日 海軍二號外部礦油ソーダ廢液より油分回收法

- (ニ) 昭和十三年二月十八日 海軍二號外部礦油調合油の製造
- (ホ) 昭和十三年二月十八日 液體硫酸ピッチパーナー焚法の考案

二、履歴の概要

本籍地 新溪市船場町一丁目二五一〇番地
 現住所 新潟市流作場一六〇三番地

伊 藤 利 次

明治二十年三月三日生

學 歴

- 一、明治三十六年 新潟市立高等小學校卒業

職 業

- 一、明治三十九年十一月迄 家事ノ石油製造販賣業ニ從事ス
- 一、明治三十九年十一月 長岡市中島小川製油所ニ製油工夫トシテ入所
- 一、明治四十一年九月 家事ノ都合ニ依リ辭職
- 一、明治四十一年十二月 寶田石油株式會社ニ採用セラレ後日本石油株式會社ト合併引續キ勤

務現在ニ至ル

六

賞 罰

- 一、大正十二年十二月 作業上有益ナル發明考案ニヨリ日本石油株式會社ヨリ表彰セラル
- 一、昭和九年十月 作業上有益ナル發明考案ニヨリ日本石油株式會社ヨリ表彰セラル
- 一、昭和十三年二月 作業上有益ナル發明考案ニヨリ日本石油株式會社ヨリ表彰セラル
- 一、昭和四年十一月 二十年以上日本石油株式會社ニ精勵シタルノ廉ニヨリ新潟商工會議所會頭ヨリ表彰セラル
- 一、昭和九年十一月 二十五年以上日本石油株式會社ニ精勵シタルノ廉ニヨリ新潟商工會議所會頭ヨリ表彰セラル
- 一、昭和十四年十一月 三十年以上日本石油株式會社ニ精勵シタルノ廉ニヨリ新潟商工會議所會頭ヨリ表彰セラル
- 一、大正十五年五月 勤績滿十五年ニ付日本石油株式會社ヨリ表彰セラル
- 一、昭和五年五月 勤績滿二十年ニ付日本石油株式會社ヨリ表彰セラル
- 一、昭和十年五月 勤績滿二十五年ニ付日本石油株式會社ヨリ表彰セラル

山口 炭 礦

人事兼檢炭係主任 鈴木 兼 次 郎 君

一、表彰事績の概要

- 一、大正五年坑内係に就職するや業務に精勵し危害豫防に萬全の策を講じ作業能率を増進させたり。偶々大正七年六月本線より百米右一坑道舊採掘跡より自然發火したるを巡廻中發見し同坑道坑夫百二十名を直ちに避難させ率先坑夫を督勵して密閉作業を開始せり。然るに五米奥にて作業中の二名は瓦斯の爲窒息倒れたるを確むるや單身脱兎の如く現場に駆け寄り二名を安全地帯に救出し人工呼吸を施し蘇生せしめ完全なる密閉作業に依りて坑道を完全に防護し作業を繼續するを得たり。其の用意周到にして決死的行爲たるや功績拔群なるものと認む。
- 二、昭和三年新斜坑引立掘進の際引立より上方十米炭壁の状態浸透す水の状態等に依りて近距離の舊採掘跡に水の充滿しあるを察知し直ちに掘進を中止しボーリングを行ひし處炭柱の中一米四十糎にて舊坑に貫通したり。水は其の穴より迸出し約五萬立方呎の水を充滿し居りたり。一晝夜にして是れを揚水し引立掘進を續行したりき。危険寸前にして是れを察知し未然に防ぎしは日頃業務に精勵

七

と技術の優秀なるものに起因す。其の功績拔群なるものと認む。

三、昭和十三年七月の大水害の爲坑内は刻々に増水し左六坑道は瞬く間に浸水し指揮者となりて全礦總動員右五坑道捲立に全唧筒を据付け能力を最高度に運轉し必死となりて水魔と戦を交へ右五坑道より上部を浸水より喰止め全山を休業より救ひたるは其の指揮の宜しを得たるものにして其の功績拔群なるものと認む。

四、昭和十五年二月坑外撰炭場附近の貯炭場に約五百吨の貯炭ありたるも最深部十米の箇所に自然發火したるを探知し應急豫防策を施し是れを完全に消火し五百吨の石炭を焼失より免られたり。其の功績拔群なるものと認む。

五、現在は老齡も顧みず日夜業務に精勵し従業員の模範となり鑛業報國會の顧問を兼ね報國精神の鼓吹に努め全礦一致協力増産遂行に邁進しつゝあり。

二、履歴の概要

本籍地 茨城縣多賀郡磯原町大字大塚千五百十番地
 現住所 同前
 鈴木兼次郎

明治十一年九月二日生

職歴

一、自明治四十一年至大正六年
 茨城縣多賀郡磯原町合資會社山口炭礦創立セラル、ヤ人事係員トシテ就職ス

一、自大正六年至大正十一年
 同礦坑内係員ニ轉勤

一、自大正十一年至大正十五年
 同礦人事係主任兼檢炭係主任ヲ拜命

一、自大正十五年至昭和二年
 合資會社山口炭礦解散シ殘務整理係ヲ命ゼラル

一、昭和二年山口炭礦再操業開始セラル、ヤ人事係主任兼檢炭係主任を命ゼラル現在時ニ至ル

一、罰ナシ

一、明治三十七、八年日露戰役ニ出征ス

河津鑛山
助 手 前 川 九 助 君

一、表彰事績の概要

大正六年六月二十五日久原鑛業株式會社經營時代より當鑛山に準小頭として入り大正七年六月一日助手に登用せらる。爾來二十三年引續き職長として勤務現現在に至りしものにして資性剛健、謹直にして業務に精勵し部下の統卒力に富み常に衆の模範たり。而も君は昭和六年二月當山の主鑛體たる須崎新坑々體發見の端緒を開き探鑛採鑛、選鑛にゆくとして可ならざるはなく輒近勞務動員計畫に基き移入雇傭したる半島勞務者の指導誘掖に努め全従業員より畏敬せらる。尙君は常に災害防止と能率増進に意を注ぎ安全運動に盡したる功績又大なりとす。

二、履歴の概要

本籍地 岩手縣稗貫郡花卷町五十一番戸
現住所 静岡縣賀茂郡下河津村濱

前 川 九 助
明治十九年五月三日生

學 歴

一、明治二十六年四月 花卷尋常小學校卒業

職 歴

一、大正六年六月二十五日 準小頭
一、大正七年六月一日 助 手
一、勤續二十三年七ヶ月

河津鑛山
小頭 大野近一郎君

一、表彰事績の概要

大正四年一月四日當山選鑛夫として就職同年五月早くも準小頭に登用せられ其の精勵恪勤は上長の認むる處となり大正七年一月一日小頭、昭和七年一月一日鑛夫頭に昇進今日に至る。其間二十六年一ヶ月に及びたり。

而も温厚なる資性と明朗闊達は部下の信賴する處となり全山従業員よりは父の如く畏敬せらる。

大正五年四月當山鑛脈たる蓮台寺猿喰鑛脈發見の緒を開き當所の業績に貢獻する處多く温交會、消防隊、安全委員會等の要職に就き其功不尠他の範として推稱するに足る。

二、履歴の概要

本籍地 静岡縣賀茂郡稻生澤村大澤三三二番地
現住所 静岡縣賀茂郡稻生澤村蓮台寺一三四番地

大野近一郎

明治二十二年二月五日生

學 歴

一、明治三十七年十月 静岡縣賀茂郡豆陽中學校第三學年退學

職 歴

- 一、大正四年一月 四日 河津鑛山選鑛夫
- 一、大正四年五月二十五日 準小頭
- 一、大正七年一月 一日 小頭
- 一、昭和七年一月 一日 鑛夫頭
- 一、勤續二十六年一ヶ月

日本鑛業株式會社日立鑛山工作課

鑛夫頭 高橋 藤助君

一、表彰事績の概要

明治四十一年六月日立鑛山に就職し、同年七月小頭に進み、鑛山専用電氣鐵道の創設に當りては全線路工夫を指揮して其の軌道敷設工事に力を盡し同四十五年鑛夫頭となり、入所以來三十有餘年の間終始一貫専用鐵道の増設保守に盡瘁せるのみならず一般土木工事にも造詣深く鑛山の操業に貢獻する所甚だ大なるものあり。

君は性極めて温厚篤實、平素温情を以てよく部下の指導訓育に當り、常に力を融和協調に盡し、爲めに一般従業員よりも慈父の如くに慕はれ、又一面責任感頗る強く、災害に當りては挺身之に當り常に其の措置を誤らず其の功績頗る大にして以て衆の模範とするに足るものなり。

二、履歴の概要

本籍地 岩手縣和賀郡藤根村藤根一四五

現住所 茨城縣日立市大字宮田三四五三

高橋 藤助

明治十五年一月二十一日生

學 歴

一、明治二十五年三月 尋常小學卒業

職 歴

一、明治三十五年三月 小坂鑛山鐵道線路工夫

一、明治三十七年一月 組 頭

一、明治三十九年四月 鶴銅山鐵道線路工夫

一、明治四十一年六月 日立鑛山線路工夫

一、明治四十一年七月 小 頭

一、明治四十五年一月 鑛夫頭ニ進ミ現在ニ至ル

賞

永年勤績シテ業務ニ精勵セル廉ニ依リ左ノ通り賞ヲ受ク

一、大正 七年六月 勤績十年ノ表彰狀竝ニ木杯一ヶ

- 一、大正十二年六月 同十五年ノ表彰状
- 一、昭和三年六月 同二十年ノ表彰状並ニ銀杯一組
- 一、昭和八年六月 同二十五年ノ表彰状
- 一、昭和十三年六月 同三十年ノ表彰状

久根 鑛山
職 長 堀 内 事 衛 君

一、表彰事績の概要

明治三十七年二月當山鍛冶工として雇入れ以來勤績實に三十有七年に及ぶ。此の間終始一貫鍛造及修理作業に従事し常に技術の向上琢磨に努め、孜孜として倦まず、如何なる難作業に當るも瞬時にして其の骨髓を把握し些の過誤なく作業の迅速精確なること他の追隨を許さざるものあり。資性眞摯温良曾て評語を聞かず然も毅然たる者あり、常に淳々として後輩を誘掖補導し同僚後輩の心服せざるなし。

大正十年模範鑛夫として表彰せられ超て大正十三年木村氏表彰資金より表彰せらる。昭和十五年十月新に職長制を設くるや選ばれて職長となり爾來今日に至る。尙第一線に活躍し當山斯業の重責に任じ至寶として仰がる。誠に稀に見る模範従業員と云ふべし。

二、履歴の概要

本籍地 静岡縣磐田郡佐久間村佐久間二番地
現住所 同

堀内事務衛

學歴

一、明治三十六年三月二十八日 岡山縣苫田郡久田村尋常高等小學校高等科第一學年終了

職歴

- 一、明治三十七年二月二十一日 古河鑛業株式會社久根鑛業所機械夫（鍛冶工）トシテ雇ハル
- 一、大正十年十二月二十八日 同所模範鑛夫トシテ表彰セラレ
- 一、大正十三年十一月十五日 古河鑛業株式會社ニ於ケル木村氏表彰資金ニヨリ表彰セラレ
- 一、昭和十五年十月一日 久根鑛業所職長トナリ現在ニ至ル

表彰狀

採鑛係機械夫 堀内事務衛

右者資性眞摯謹嚴ニシテ明治三十七年傭入以降終始一貫業務ニ忠勤シ常ニ考究的態度ヲ以テ熱誠職ニ當リ其ノ技鍛冶工トシテ優越セル者アリ又家ニ在リテハ老母ニ仕フルニ孝養至ザルナク近隣ノ齊シク感賞シテ措カラザル所ナリ洵ニ衆ノ龜鑑トスルニ足ル
仍而模範鑛夫トシテ之ヲ表彰ス

大正十年十二月二十八日

古河鑛業株式會社久根鑛業所

表彰狀

久根鑛業所

採鑛係鍛冶夫 堀内事務衛

右者資性眞摯端正入社以來勤績茲ニ二十有一年孜々トシテ業務ニ精勵シ技能亦優秀家庭ニ在リテハ老母ニ仕ヘテ孝養至ラザルナク曩ニハ模範鑛夫トシテ選賞セラレ洵ニ衆望ノ儀表タリ
仍テ木村氏表彰資金ヨリ之ヲ表彰ス

大正十三年十一月十五日

古河合名會社

葡萄 鑛 山
 坑内機械夫長 加藤 源 一 郎 君
 葡 萄 鑛 山
 坑内機械夫長 千羽 源 太 郎 君

一、表彰事績の概要

右兩君は昭和十五年七月十二日午前零時葡萄鑛山地内葡萄川は前夜來の豪雨に因る未曾有の大洪水の虞あるため、同鑛山警防團員として非常召集に應じて鑛業事務所に馳付け葡萄川に沿ふ同事務所及採鑛事務所並に本坑々口に浸水せるを受命防禦工作中平水〇・三米の水が四米に達し坑口を没し坑内夜業中の六〇名の危険あり、電話不通に陥りしに付同鑛山警防團長の命を受け坑内作業全員を裏口坑口より避難せしむべしとの傳令として坑内に突入浸水を事ともせず挺身決死隊となり堅坑地底五〇〇尺に至る間十數ヶ所の全作業者を坑外に避難せしめ、更に最奥部全部を調査し梯子を上昇せんとするとき既に浸水は堅坑上より直下して瀧の如く砂利をも落下しカンテラは消え警防團制帽は押流され危険切迫せり。

此の時兩名は意を決し坑内唧筒の保全に決死努力するに如かずと爲し、其中坑外よりの浸水は防禦さるゝを待ち順次安全地帯に移動すべしと合議して一〇〇馬力唧筒を運轉して排水に努め他の唧筒座をも巡回運轉を續けたるため、外部の防水作業と相待つて完全唧筒座の保全と人命の救助避難の任を完ふせり。

縣警防課は殊勳甲人命救助者として此の行爲を新聞に發表せり。

二、履歴の概要

本籍地 新潟縣北蒲原郡京ヶ瀬村粕島六二九
 現住所 新潟縣岩船郡鹽野町葡萄六八六
 加 藤 源 一 郎
 明治四十一年十二月二十一日生

學 歴

一、大正九年三月 京ヶ瀬尋常小學校卒業ス

職 歴

一、昭和三年四月八日 葡萄鑛山鑛夫奉職

- 一、昭和十五年一月十六日
- 一、昭和十五年八月十五日
- 一、昭和十五年八月十五日

葡萄鑛山坑内機械夫長ヲ命ス
 永年精勤シ同鑛山ヨリ表彰サル
 昭和十五年七月十二日葡萄鑛山未曾有ノ水害ニ際シ自己ノ危険ヲ省ミス挺身人命ヲ救助シ且ツ坑内唧筒座ヲ死守シタル功勞顯著ニ付金一封ヲ贈リ茲ニ之ヲ表彰ス

葡萄鑛業所長 岩谷東七郎

本籍地 新潟縣岩船郡黒川俣村大毎七三〇
 現住所 新潟縣岩船郡鹽野町葡萄六八〇

千羽源太郎

明治四十一年四月二十八日生

學 歴

- 一、大正九年三月

黒川俣尋常小學校卒業

職 歴

- 一、昭和三年五月十七日

葡萄鑛山鑛夫奉職

- 一、昭和十五年一月十六日
- 一、昭和十三年七月十日
- 一、昭和十五年八月十五日

葡萄鑛山坑内機械夫長ヲ命ス
 永年精勤シ葡萄鑛山ヨリ表彰サル
 昭和十五年七月十二日葡萄鑛山未曾有の水害ニ際シ自己シ危険ヲ省ミス挺身人命ヲ救助シ且ツ坑内唧筒座ヲ死守シタル功勞顯著ニ付金一封ヲ贈リ茲ニ之ヲ表彰ス

葡萄鑛業所長 岩谷東七郎

永松 鑛山
支柱夫頭 松田喜太郎君

一、表彰事績の概要

資性、温厚、着實、業務に精勵し技倆優秀なり。夫頭として後進の指導誘掖に努むるのみならず挺身難工事に當り採鑛竝に運搬作業の支障を未發に防止し出鑛計畫の遂行に意を用ふ。尙父祖四代に亘りて一貫當山に止まりて轉替を念はず、山勢の發展を我が喜びとし、忠實業に勵み今日に及びたること比儔を見ず。衆望を負ひて友子交際の總代に推さる。

昭和三年八月模範鑛夫として當所の規定に依る表彰を受く。

二、履歴の概要

本籍地 山形縣西村山郡白岩町大字幸生字幸生銅山番外地
現住所 同上
松田喜太郎

明治三十四年七月十五日生

- 一、大正二年七月 支柱手子トシテ雇備サル
- 一、大正七年十二月 採鑛夫ニ轉ズ、更ニ進鑛夫トナル
- 一、爾後支柱夫兼進鑛夫トナル
- 一、昭和十三年十月支柱夫頭ヲ命ゼラレ現在ニ至ル

三菱鑛業株式會社細倉鑛山

職 頭 高 橋 東 一 郎 君

一、表彰事績の概要

昭和九年三月二十八日前鑛業權者より當社が之を買收の時引繼たる者にして前後十六年の長きに亘り當鑛山選鑛課に勤務、現選鑛場建設當時より忠實業務に勉勵主として手選場を擔當し常に工夫研究を怠らず四〇ミットロンメルの給鑛一定化を圖り、手選場暖房ボイラーの改良に依り石炭の完全燃焼を工夫消費量半減の好成績を挙げ、コンベアーベルトの改良に依り其の磨滅を防止し、ウォッシュヤ、ライニングの改善に依り其の能率の向上を示せる等小部分なりと雖も其の繰業上に與へたる效果甚だ大にして昭和十四年度安全週間に當りては其の功を認められて當所より金一封を與へられたり。又同人は信仰の念殊の外深く昭和十三年十二月擢られて職頭に登用せらるゝや手選場の氣風一新を圖り稍もすれば單純作業のため能率の低下し易き選鑛婦の作業位置を變更せしめ非常な效果を挙げ加ふるに毎朝作業着手前嚴肅なる方法を以て皇居、山神社の遙拜を勵行せしめ作業精神の作興を圖り以て職域奉公の誠を竭さしむることに依り氣風大いに改まり稼働成績良好となりたり。家には四男四女あり、

至極圓滿にして健康、其の人を感化する力妙にして近隣の尊敬篤し。趣味は園藝に長じ讀書を好み修養を怠らざる高潔なる人格は其の優秀なる技倆と相俟て誠に模範的従業員とするに足る。

二、履歴の概要

原籍地 宮城縣栗原郡鶯澤村南郷中日照一番地
現住所 宮城縣栗原郡鶯澤村南郷中日照一番地

高 橋 東 一 郎
明治三十一年六月三十日生

學 歴

一、宮城縣栗原郡鶯澤尋常小學校卒業

職 歴

- 一、明治四十一年四月 農 業
- 一、大正 四年 二月 當所（高田鑛山）時代土工夫トシテ入社
- 一、大正 五年 五月 農 業
- 一、大正十四年五月 當所（高田鑛山時代）選鑛夫トシテ入社今日ニ至ル
- 一、昭和十三年十二月 職頭ニ登用セラル

古河鑛業株式會社好間鑛業所

夫 頭 鹽 澤 軍 太 郎 君

一、表彰事績の概要

大正十一年七月古河好間鑛業所澁川組人繰夫として就職せるも偶々大正十三年十一月墜坑々内水災のため一時退職の已むなきに至り、翌年新規斜坑の開鑿起工により事業開始せらるゝや大正十五年二月再び支柱夫として就職し爾來十年有餘孜々として業務に精勵し、其の資性誠實勤勉にして克く上司の命に従ひ技倆亦優秀にして後輩を指導誘掖し成績見る可きものあるにより昭和二年七月拔擢せられ夫頭となり今日に至る。業績の概要次の如し。

一、災害防止運動

君は夙に災害防止に關し之が攻究を怠らず從來業務上に於ける負傷の原因は其の大部分は各人の不注意に起因する實情に鑑み「我等の一身は我等が護る」と言ふスローガンの許に常に第一線に立ち率先衆を率ゐて従業員の爲に盡瘁せり。

昭和九年十月全従業員を一丸として防災の自治運動團體たる安全力行會を結成、之が副會長とな

り常設的の運動を開始したり。昭和十一年五月之を細胞組織に改組し本運動の目的達成の爲益々其の強化に努めたり。

防災運動の初期昭和十年の頃に於ける稼働延人員の千人當負傷率二・二五%なりしが、昭和十一年八月は〇・五一%、支那事變勃發の七月は〇・五二%の如き記録的成績を收めたるは常に君が平和なる家庭の確立と主婦の責務を或は亦充分なる休養と睡眠の必要性を説き、寢食を忘れての災害防止運動の賜物なり。然れども支那事變發生するに及び熟練鑛夫の出征、未熟練鑛夫の増加等に依り次第に人的構成の變化するに伴ひ若干災害率の増加を招く悲境に陥りたるも、君の災害防止に對する研究熱は愈々倍加し昭和十四年古河好間炭鑛産業報國會の設立に伴ひ安全力行會の組織を生活刷新班に編成替をなし、支那事變後の諸困難の克服に努めたる結果、稼働延人員の千人當負傷率昭和十三年度平均一・四一、昭和十四年度平均一・六三昭和十五年度平均一・六七にして災害防止運動の初期たる昭和十年二・二五に比すれば其の成績良好にして支那事變後に於ける諸困難を克服して終始災害防止運動に盡瘁せる君の功績の偉大なるを知るものなり。

二、自治運動並産業報國運動

大正十五年十月勞資の協調と福利増進の唯一機關たる當所鑛夫自治會の設立せらるゝや昭和二年自治會長に推され、爾來十有餘年自治會最高幹部の一人として従業員の共濟、修養、勤儉貯蓄、

慰安娛樂、保健衛生、能率増進其の他會員共通の福祉増進、並労働條件の維持改善勞資の協調等に盡力せり。特に君は家庭生活と職場の不可分一體の關係に着眼し、職域奉公の完全遂行は平和なる家庭を確立することにより始めて成る所以を力説し從業員の覺醒に努めたり。

昭和十四年九月古河好間炭礦産業報國會設立せらるゝや推されて幹事となり勞資一體産業報國の爲に渾身の努力を拂ひつゝあり。

三、其の他

君は古河好間炭礦共濟會長並委員として或は亦古河好間炭礦健康保險組合議員並理事として從業員の共濟體位の向上、健康の保持の爲晝夜の別なく獻身的な努力を拂ひ正に全從業員の龜鑑たり。

又君は頭腦明晰且人に接するに慈父の如く懇切丁寧にして從業員の敬愛の的となり徳望を一身に集め昭和十二年六月全從業員の輿望を擔ひて村會議員となり爾來村民の福利増進にその卓見を遺憾なく發揮しつゝありて公益に裨益する處甚大なるものあり。

二、履歴の概要

本籍地 福島縣安達郡二本松町大字竹町一番地

現住所 福島縣石城郡好間村古河好間炭礦

夫 頭 鹽 澤 軍 太 郎

明治二十九年三月六日生

職 歴

- 一、大正十一年七月 古河好間炭礦所屬澁川組人繰夫ニ就職
- 一、大正十一年十一月 古河好間炭礦共濟會委員ニ就職
- 一、大正十三年十一月 堅坑々内水災ニヨリ事業中止ノ爲退職
- 一、大正十五年二月 支柱夫トシテ再ビ就職
- 一、昭和二年一月 古河好間炭礦鑛夫自治會長ニ就任
- 一、昭和二年七月 夫頭ニ昇進
- 一、昭和三年一月 古河好間炭礦健康保險組合議員並理事ニ就任
- 一、昭和三年一月 古河好間炭礦鑛夫自治會副會長ニ就任
- 一、昭和三年五月 古河好間炭礦共濟會委員ニ就任
- 一、昭和三年六月 古河好間炭礦安全委員會委員ニ就任
- 一、昭和五年一月 古河好間炭礦健康保險組合議員並理事ニ就任

- 三二
- 一、昭和七年五月 古河好間炭礦共濟會長ニ就任
 - 一、昭和八年一月 古河好間炭礦健康保險組合議員並理事ニ就任
 - 一、昭和九年十月 古河好間炭礦完全力行會副會長ニ就任
 - 一、昭和十一年一月 古河好間炭礦鑛夫自治會評議員ニ就任
 - 一、昭和十二年一月 古河好間炭礦健康保險組合議員並理事ニ就任
 - 一、昭和十二年一月 古河炭礦鑛夫自治會副會長ニ就任
 - 一、昭和十二年六月 好間村々會議員ニ當選
 - 一、昭和十四年九月 古河好間炭礦産業報國會委員並幹事ニ就任今日ニ至ル

日本石油株式會社秋田製油所
鐵工長 品田 昌松君

一、表彰事績の概要

性温順にして作業に熱心且つ研究心に富み部下の指導養成宜しきを得て幾多優秀鐵工手を輩出す、勤務亦勵精にて勤績滿十八年の間缺勤したる事なし。昭和三年四月以降鐵工長の職を奉じ良く掘鑿採油作業に使用の機械工具の機能に精通し此の間工具の改良新案等石油事業への貢獻尠ならず、其の概要左の如し。

- A 坑井水止用セメンチングヘッドの改良
 - B ダットングスリップ製作の新案
 - C 採油用ロット四軸装置新案
 - D 皮替用スキベルフックの新案
- 以上考案に對する説明
- A 坑井水止用セメンチングヘッドの改良

從來のセメンチングヘッドは第一、第二木栓を装填し木栓を支ふる「木栓止」は「スクリュー」又は「ラック式」なりしが此兩式共木栓投下に際し迅速を欠き不便尠からず。依て槓杆式に改良し極めて迅速に木栓を投下する事を得至便なり。爾來廣く此式を用ひつゝあり。

B ダットングスリップの製作新案

「ダントング」の「スリップ」を直徑六吋八分の五以上の廢物鐵管を利用して製作する事を新案したり。

時局柄廢物利用の好例を示せり。

C 採油用ロット四軸裝置新案

チュービンク使用吸上採油に於ては「スチールサツカローッド」ノ上下運動の際チュービンク内で磨擦し而も一方のみ磨滅せしむ、之を防止し併てロットの捻子戻りをも防止せしむる爲坑々に自動回轉裝置を新案したり。

D 皮替用スキベルフックの新案

皮替用「フック」を「スキベル」式に新案し皮替作業中「ワイヤーロップ」の燃りの爲生ずる種々の不便を除去したり。

二、履歴の概要

本籍地	新潟縣刈羽郡荒濱村一三九
現住所	秋田縣由利郡院内村小國字南野三三
職	鐵工長 勳八等 品 田 昌 松

明治三十一年十月二日生

職 歴

- 一、大正十一年五月 日本石油株式會社由利鑛場ニ入社鐵工作業ニ従事
 - 一、同 十四年五月 勝手鑛場へ轉勤鐵工作業ニ従事
 - 一、昭和三年四月 鐵工長拜命
 - 一、昭和九年四月 院内鑛場へ轉勤引續キ鐵工長トシテ現在ニ至ル
- 兵 役
- 一、大正七年 兵工兵一等兵銃工長適任證附與セラル
- 勳 功
- 一、自大正九年一月 西比利亞へ出征勳八等白色桐葉章ヲ賜ハル
 - 一、至大正十年五月 表 彰
 - 一、昭和十三年五月 勳績滿十五年ニ達シ表彰セラル

日本鑛業株式會社高越鑛山支山三好鑛山
鑛夫頭 山口 國平君

一、表彰事績の概要

大正五年九月十日當時久原鑛業株式會社東山鑛山廣石坑（德島縣名西郡阿野村所在）に支柱夫として被雇、營々孜々として倦まず、順次累進して大正十二年一月一日鑛夫小頭となり後進の指導と監督に努め、次で昭和二年五月二十二日三好鑛山の再開せらるゝや新坑開發に苦心しその蘊蓄を傾注して今日の三好鑛山の基礎を確立せしものにして其間昭和十一年一月一日鑛夫頭に登用され、又昭和六年二月二十七日より技術管理者代理として係主任を援けて一山の保安に任ずる等其の功績顯著なり。

二、履歴の概要

原籍地 德島縣名西郡阿野村廣野字南倉目二十九番地
現住所 同 縣三好郡三庄村大字毛田四、七七七ノ一四九（三好鑛山内）
山口 國平

明治二十四年五月十八日生

學 歴

一、明治三十五年三月 名西郡阿野尋常小學校四年修業

職 業

- 一、大正五年九月十日 久原鑛業株式會社東山鑛山廣石坑ニ支柱夫トシテ採用サル
- 一、大正十二年一月一日 鑛夫小頭ニ登用サル（久原鑛業株式會社）
- 一、昭和二年五月二十二日 久原鑛業株式會社三好鑛山へ轉勤ヲ命セラル（右同）
- 一、同 三好鑛山技術管理者代理ヲ命セラル（大阪鑛山監督局）
- 一、同 三好鑛山坑内衛生係員トナル（右同）
- 一、昭和十一年一月一日 鑛夫頭ニ登用サル、現在ニ至ル（日本鑛業株式會社）

賞 罰

一、ナシ

日本鑛業株式會社東山鑛山
鑛夫頭 河野利八君

一、表彰事績の概要

明治四十三年十一月一日日本鑛業株式會社（當時久原鑛業）東山鑛山廣石坑に鐵工として就職し爾來孜孜として倦むことなく眞摯熱誠一意業務に勉勵し強健なる體軀と相俟つて精勵實に三十ヶ年有餘に及び。

資性温厚篤實にして克く上司の命を奉じ同僚とは相和し、下に對しては懇切無上克く後輩を誘掖指導し、現在廣石坑の至寶として夙に上下の敬愛の的となり信望を一に擔へり。大正十五年一月一日拔擢せられ小頭に昇進し、昭和十五年一月一日更に鑛夫頭に任命さる。卓越せる指揮監督と其の高潔なる人格は部下をして慈父の如く慕はしむ。爲に事業場は常に和氣霽々明朗にして良く働き全員一致鑛業報國に鑛物増産に邁進す。これ實に君の然らしむる所なり。

君の機械保安に對する旺盛なる責任觀念は幾多の創意工夫をこらし鑛山機械器具の改良と能率増進に多大の功績を残せり。

現在推されて安全委員、温交會委員幹事、特設防護團工作班長の要職につく。常に君は寸暇を惜しまず鑛業報國精神發揚に勵み鑛物増産に災害絶滅に従業員の安全福祉に、又内にありては良き父として子女の薫育をなし引いては之を衆に及ぼし融々和樂鑛山一家の練成に努める等卒先垂範あらゆる犠牲的努力を拂へり。

蓋し職域奉公の化身か君こそ誠に産業戰士の龜鑑とさるべく時局多端の折鑛業報國に寄與すること偉大なり。

二、履歴の概要

原籍地 德島縣名西郡阿野村大字阿川字本名二十五番地
現住所 同 右

河野利八
明治二十五年一月十九日生

學 歴

一、明治三十七年三月 德島縣名西郡阿野村阿川尋常小學校尋常科卒業

職 業

- 一、明治四十三年八月 德島縣名西郡阿野村持部鑛山鐵工
 一、大正 三 年十月 同 廣石坑鐵工
 一、大正十二年七月 準小頭拜命(久原鑛業東山鑛山)
 一、大正十五年一月 小頭拜命(同)
 一、昭和十五年一月 鑛夫頭拜命(日本鑛業東山鑛山)

別子 鑛山
 採鑛課支柱夫 三 塚 與 次 郎 君

一、表彰事績の概要

明治三十五年三月七日の雇入にして爾來三十有九年精勵恪勤、大正十四年八月十八日小頭に任命、昭和四年七月一日組長に昇進引續き現在に至る。其間業場に於てはよく上司の命に服し或は後進を指導し事業に對する功績大なるものあり。資性溫和、素行又善良にして夙に鑛夫交際部、改善會等の幹部、役員に重任し現在親善會相談役及産業報國會の幹事となり従業員中の長老として一般の指導に盡瘁する處多し。

家庭には母、二男、三女あり、圓滿にして家計安定せり。長男も父祖の意志を繼ぎて當銅山に産業戦士として勤務中の處入營し目下第一線に於て御奉公中なり。以上父子三代に亘り當銅山に職を奉じ就中本人の勤績四十年に垂んとし其の在職中の功勞又大いに賞すべきものあり。

二、履歴の概要

本籍地 愛媛縣新居郡中萩村大永山三五七
現住所 同 縣同 郡角野村立川山六五四

三 塚 與 次 郎

明治二十四年九月十日生

學 歴

一、尋常小學校卒業

職 歴

一、明治三十五年三月七日 別子鑛山に就職

別子鑛山

製鍊課鑛夫 高 橋 虎 市 君

一、表彰事績の概要

鑛鑛鍍壺安全裝置改造考案し其の實績顯著なり、概要左の如し。

イ、四阪島製鍊所に於て鑛鑛爐產出鍍を熔體のまゝ海岸捨場に放棄するに使用する鍍壺は放棄に際し之を傾轉して放流するものなるが、往々運搬途中何かの衝撃により自然に傾轉して鍍が流出し大なる災害を起す恐れあり。之が防止策につき種々研究中なりしが、苦心研究の結果別項記載の如き特殊の裝置を考案し自動的に必ず止金が働く様にせるものなり。該裝置は簡單にして然も効果確實、災害防止上極めて有効適切なるものにして其後現在に至る迄之を實施し居り其の實績優秀なり。

ロ、安全裝置の説明

(1) 從來の安全裝置は別紙説明圖の如く九〇度に彎曲せしめたる適當寸法の鐵板を傾轉金物の軸に取付け、ピンを挿入し彎曲部がメタル臺金物脚部の間隙に入り電車運轉中の振動等により自

然に鍍壺の傾轉するを防止するものなり。右装置は時々従業者の多忙のため該安全装置の金物の取付を失念し電車の運轉中に於ける振動のため鍍壺に充滿せる鎔礦を溢出せしめしことあり。装置の改造に種々研究中のものなりしなり。

(2) 改造安全装置は厚さ $5\frac{1}{8}$ 、短邊 $1\frac{1}{4}$ 、長邊 $3\frac{3}{4}$ の鐵板にして自重、四、四五斤を有す。鐵板の兩端にパイプを熔接し、メタル臺に取付けたる二本の鐵棒に通じ容易に上下せしむるを得む。鍍壺傾轉の操作中は鐵板中央部の約 $3\frac{1}{2}$ 徑の圓型に刻貫きたる部分にハンドルを取付傾轉金物の軸を廻轉し、操作終了し鍍壺が正規の位置に復したる時ハンドルを取外せば鐵板は自重により降下し軸の角型の部分と鐵板の間隙と合致し鍍壺の傾轉を防止す。如斯改造により指定されたる通りの方法により操作せば失念による事故を防止し一段と安全性を増さしめたるものなり。

(圖面略)

二、履歴の概要

本籍地 愛媛縣新居郡角野町二二四〇
現住所 同 縣越智郡宮窪村四阪島
高 橋 虎 市

明治三十年五月十五日生

學 歴

一、尋常小學校卒業

職 歴

一、大正九年十一月二十日 別子鑛山ニ就職

三井鑛山株式會社山野鑛業所
工作夫 平 島 勇 次 郎 君

一、表彰事績の概要

性寡言黙行温厚篤實にして明治四十二年一月當所坑外工作夫として入所爾來今日迄實に三十一年の長きに亘り殆んど缺勤なく業務に精勵し其の間の撓まざる努力は旺盛なる研究心と相俟ちて優秀なる技能を體得し坑外に於ける工作作業及び後進の訓育等に關しては全く同人の右に出づる者なく寔に衆の範とするに足れり。推されて當所保安會班長に就任すること三回に及べり。
昭和九年五月永年勤續二十五年の故を以て三井鑛山株式會社より表彰せらる。

二、履歷の概要

本籍地 福岡縣嘉穂郡山田町大字下山田四九〇番地
現住所 福岡縣嘉穂郡稻築村大字漆三井山野鑛業所第一坑従業員社宅
平 島 勇 次 郎

明治二十二年十月二十日生

學 歴

一、明治三十五年三月 山田尋常小學校卒業

職 歴

一、明治四十二年一月 三井山野鑛業所坑外工作夫ニ採用セラレ引續キ現在ニ至ル

赤池 炭 礦
機械電氣係員(職員) 西 原 勝 次 君

一、表彰事績の概要

機械電氣方面の繁多なる業務を擔當する側ら良く技術家の重要任務を自覺し寸暇を等閑に附せずして研究に没頭し今日迄鑛業機械の分野に一新機軸を開きたること尠なからざるは既に衆知の事實にして曩に社内にて表彰を受けたることあり、世人敬賞し措く能はざる處なり。

偶々多年の研究結實して別記の如く運搬車軸承装置を考案し既に實用新案として登録せられたり。本考案は其の鑛山機械に與へる效果特に甚大にして其の實蹟優秀なり。

運搬車軸承装置説明書

一、作 用

本考案は軸承臺(1)の内側に軸承金(2)を嵌合せしめ(1)の凹部に(2)の凸部を嵌口せしめて(2)の回轉を阻止す。

リング(3)はスプリング(4)に取付け、スプリング(4)車輛のアームに嵌込み(3)(4)は車軸、車輪と共に

(2)の油と密接回轉をなす。

注油せし油は(A)部に溜り矢の方向に流れ減摩をなす。

二、效 果

從來までの軸承は軸承金(2)を有せず摩耗後はボデー全體の取替をなせしも本品軸承金(2)の上部摩耗後は一八〇度轉換せしめ二回使用するを得、上下使用摩耗後は軸承金(2)のみの取替にて足れり。又注油せし油は軸承金(2)とシャフトの摩耗により下部間隙より外部に流出せんとするも、スプリング(4)の壓力にてリング(3)と軸承金(2)の鏝と絶へず密接し油の流出を防止す。リング(3)とシャフトは同時に廻轉をなしカーブに對して時々ストローラをなすのみなれば摩耗なし。

油の節減を甚大ならしめ尙材料の節約に於てはボデーは永久使用に耐へ從來の軸承使用期間平均二ヶ年に比し六ヶ年の使用に耐へ取替費は其の八分の一にて足れり。

本機構に於て螺子上等を有せず取付取替操作至極簡單確實なり。尙圖面第二號は當軸承の實際使用中の寸法割合を示す。(圖面略)

二、履歴の概要

本籍地

福岡縣三池郡三池町大字歷木三六九番地

現住所 福岡縣田川郡赤池町大字赤池四三二番地

西尾勝次

明治四十三年四月二十九日生

學 歴

一、昭和五年三月 福岡縣立八女工業學校機械科卒業

職 歴

一、昭和五年四月十五日 吳海軍工廠水雷部製圖ニ入廠

一、昭和七年七月二十一日 海軍艦政本部ニ轉勤ヲ命セラル

一、昭和十二年四月二十六日 傭員明治鑛業株式會社鑛務部員機械電氣課勤務

一、昭和十三年十月一日 機械課員兼電氣課員

一、昭和十四年五月二十三日 赤池鑛業所赤池炭礦機械電氣係員命ス

赤池炭礦
支柱夫 濱田虎市君

一、表彰事績の概要

就職以來三十三年餘孜孜として業務に精勵し卓越せる技倆を以て克く後進の指導に努め資性温厚、衆望厚く安全團幹部として安全運動に盡瘁し其の功績顯著なり。

二、履歴の概要

本籍地 島根縣仁多郡阿井村大字阿井一、六五六番地

現住所 福岡縣田川郡赤池町大字赤池四三二番地

濱田虎市

明治二十八年四月二十日生

學 歴

一、明治四十一年三月 阿井尋常小學校尋常科卒業

一、明治四十一年十二月二日 明治鑛業株式會社赤池炭礦第一坑採炭夫トシテ就職現在ニ至ル

三菱鑛業株式會社崎戸鑛業所
採炭夫 鶴 丸 利 吉君

一、表彰事績の概要

君は資性温厚篤實にして明治四十四年十一月當所採炭夫として入社以來今日の大崎戸建設に至る迄三十年の永き間強健なる身體と不撓不屈の精神は克く困苦艱難に耐へ波瀾曲折の創業直後より克く一意専心上司の命を守り常に卒先挺身的努力を以て貢獻せし事績顯著なり。

爾來人生半ばに達する永年間に當所採炭夫として身を勤勞報國に捧げ、其の温厚なる人格と優秀なる技術とを以て孜孜として倦まず常に第一線に於ける模範戰士として同僚間の中心人物として活躍す。曩に選ばれて坑内安全委員を命せられるや、強き犠牲的精神と篤き責任感は屢次の坑内變災に際して難事を克服し今日迄坑内外保安に盡瘁せしこと其の數を知らず。又去る十三年三月新入者指導員を命せられるや懇切丁寧を以て後進の指導誘掖に専心没頭し其の任務を完遂せり。されば一般より慈父の如く敬服欽慕せられつゝあるも宜ななりと謂ふべし。又昭和十四年三月以來衆望を擔ひ保險議員に就任するや常に穩健なる意見と倦むことを知らざる熱意を以て衆庶の儀表たると共に保健福祉の確

立に盡瘁せしこと多し。

過般新體制運動の發生と共に本年一月部落會副會長に推され翼賛運動の第一線に在りて時局を達觀し常に鑛業報國職域奉公精神を鼓吹せり。

家庭には亦三男一女ありて一家最も圓滿近隣の等しく欽慕するところにして一、二男は當所従業員として勤務活躍し一家を揚げて鑛業報國に邁進せることは衆の模範とするに足る。

二、履歴の概要

本籍地 佐賀縣佐賀郡久保田村横江

現住所 長崎縣西彼杵郡崎戸町 三菱鑛業株式會社崎戸鑛業所東峰社宅

鶴 丸 利 吉

明治二十四年一月五日生

學 歴

一、明治三十八年三月 本籍地横江小學校卒業

職 歴

一、自明治四十二年三月至明治四十四年十月 佐賀縣北波田村岸武炭坑仕繰夫

一、明治四十四年十一月、在崎戸鑛業所採炭夫トシテ現在ニ至ル

賞 罰

一、昭和十一年六月七日 崎戸鑛業所ヨリ二十年以上勤績者トシテ表彰サル

一、昭和十二年七月 崎戸鑛業所ヨリ二十四年以上勤績者トシテ表彰サル

一、昭和十二年十二月 崎戸鑛業所創業三十周年記念式ニ際シ二十六年以上勤績者トシテ表彰サル

サル

一、昭和十五年七月 崎戸鑛業所ヨリ二十八年以上勤績者トシテ表彰サル

團 體 役 員

一、昭和十二年七月 崎戸鑛業所安全會安全委員ヲ被命

一、昭和十三年七月 崎戸鑛業所安全會安全委員ヲ被命現在ニ至ル

一、昭和十四年三月 崎戸鑛業所健康保險組合議員ニ當選現在ニ至ル

一、昭和十六年一月 崎戸町東峰區部落會副會長ニ推舉サレ現在ニ至ル

沖ノ山炭礦株式會社沖ノ山炭礦

組 長 野 村 末 太 郎 君

一、表彰事績の概要

一、指導訓育ニ關シ成績優秀

資性沈着温健にして能く業務に稱勵し事業上の研討に心を盡し延ては同僚を指導し作業場に於ても温情以て人に交り爲に後進の心服する處大なるは君の努力に負ふ所多し。從て二十有六年の間未だ曾て作業所に變災負傷者等皆無にして全く人の和を得たるものにして自然衆の敬する處となる。又坑外に於ても世の趨勢を達觀し事業の運営指針を研め従業員全員より成る信愛會員の指導に努め永年其の主役に擧げられ而も其の會員の推進力なりつゝあり。又當礦に於ける鑛業報國會に於ても常に従業員代表者として其の指針を認識し間斷なく日常の業績を擧ぐることを念とし精進しつゝあり。(其他安全委員保險組合のこと何れも同様なり)又社宅内に於ける報徳町内會に對しても不斷の努力を續け會場にも卒先出席し一般會員の善導に盡しつゝあり。

其他軍人後援、青年團のこと婦人會、神社等凡ゆる方面に涉り克く垂範の實を示しつゝあり。

二、技能優秀

大正三年六月十日當礦へ採炭夫として入山し爾終始一日の如く業務上努力すると共に常に作業上の研討に熱意を以てし、或は能率に或は災害防止に或は資材の節約に或は時間の利用等凡ゆる角度より思慮を廻し、臨機應變の行動に出で能く其要衝を實行し他の模範とするに足る。尙採炭業務上各部門の技術に稱通せるを以て同僚及後進の誘導上大なる力あり。

三、永年勤続の功績

大正三年六月十日始めて沖の山炭礦へ入山し爾來一日の如く業務に精勵し而も業務上に極めて熱意を有し不斷研討を續け能く世の趨勢を知る。

組長會及び信愛會の係員に擧げられ累進其の長となり、又市會議員に擧げられること二回、又修養方面にも自ら出場他に其の範を示し報徳町内會、修養團支部、婦人會等隠れたる功勞は多大なり。

四、其他

家庭は圓滿にして其の人格は自然衆の知る處となり市中より社寺の總代迄依囑せらるゝに至る。現に琴崎八幡宮、覺法寺何れも社寺の總代を勤めること數十年に及ぶ。

一、履歴の概要

五八

本籍地 山口縣宇部市大字小串六十三番地ノ十二
現住所 山口縣宇部市大字小串六十三番地ノ十二

野村末太郎

明治二十九年三月二十五日生

學 歴

一、明治四十二年三月 宇部市立尋常高等小學高等科一年修了

職 歴

- 一、大正三年六月 沖ノ山炭礦入山
- 一、大正九年十二月 沖ノ山炭礦組長拜命現在
- 一、大正十一年一月 沖ノ山消防手拜命
- 一、昭和十三年一月 小頭任命現在
- 一、大正十四年九月 沖ノ山炭礦組長會長當選昭和十三年八月迄
- 一、大正十五年五月三十一日 皇太子殿下行啓ニ當リ故渡邊頭取ヨリ感謝狀及ビ木杯一個受ク

- 一、昭和二年四月 當鑛信愛會長ニ當選昭和七年三月迄
- 一、昭和三年十一月 沖ノ山炭礦三十週年式ニ當リ表彰狀竝ニ記念品ヲ受ク
- 一、昭和四年十一月八日 宇部市會議員當選ス
- 一、昭和四年十一月八日 秩父宮殿下宇部市御成奉迎委員拜命記念メタル拜受
- 一、昭和四年十一月 日本赤十字社通信會員ニ列ス
- 一、昭和七年九月 帝國軍人援護會贊助會員ニ列ス
- 一、昭和八年十一月 宇部市會議員當選ス
- 一、昭和八年十二月三日 日本赤十字社山口支部宇部市委員部協賛委員拜命
- 一、昭和八年一月 沖ノ山健康保險組合會議員當選引續理事現在
- 一、昭和十年七月十七日 宇部市選舉肅正委員任命
- 一、昭和十一年二月十一日 宇部商工會議所ヨリ勤績表彰及記念品受ク
- 一、昭和十二年四月 沖ノ山炭礦四十週年式ニ當リ表彰狀竝ニ記念金品受ク
- 一、昭和十三年四月 當鑛信愛會長當選現在
- 一、昭和十三年四月 當鑛安全自治會長任命現在
- 一、昭和十三年四月 縣社琴崎八幡宮氏子總代拜命現在

五九

- 一、昭和十三年四月 沖ノ山炭礦牛岩神社々總代現在
- 一、昭和十四年 宇部防犯協會沖ノ山支部長任命
- 一、昭和十五年十月 家庭防空組合沖ノ山第一區隊長任命
- 一、昭和十六年一月十四日 福岡礦山監督局中村局長ヨリ感謝狀受ク
- 一、罰ナシ

杵 島 炭 礦
採 炭 夫 三 枝 朝 六 君

一、表彰事績の概要

資性温厚「思想堅實、昭和四年三月當礦採炭夫先山として入籍以來十有餘年間終始一貫して採炭夫の職に在り、旺盛なる責任觀念と卓拔せる技術を以て受持切羽を自治的に統制し作業能率大いに見る可きものあり。

昭和五年八月採炭箇所の責任を命せられ、同年災害防止運動の澎湃として起るや選ばれて指導員の重責に任じ、爾來安全運動の第一線に挺身的努力を傾注し來れり。

昭和八年二月第三坑七下一二〇馬力捲座に火災起るや重大なる危険を冒し卒先救援に赴き變災をして大事に至らしめず人命救助に盡したる功に依り表彰せられたる外、昭和八年十二月模範従業員として昭和十四年十二月十ヶ年勤績として昭和十五年六月同一礦山に職を執ること十一年、精勵恪勤の故を以て夫々表彰せらる。其他安全保安運動等に貢獻し表彰せらるゝこと數回に及べり。

昭和十四年十月石炭増産對策の爲め半島人移入以來切羽に於ける半島人の指導教化には特に意を用

ひ、懇切丁寧至らざるなく信望を一身に集めて内鮮融和に寄與したること亦大なり。
斯くの如く君は上下の信頼愈々厚く昭和十四年四月杵島炭礦鑛業報國親和會相談役として従業員を
代表し會社の重要な事項の審議に與り、鑛業報國運動には卒先垂範の實を擧げつゝあり。敢て名利
を冀はず、家風暖々として而も仕事を自己の生命とし献身的努力せり。

一、履歴の概要

本籍地 佐賀縣藤津郡鹿島町大字高津原八七二番地
現住所 佐賀縣杵島郡大町町大字福母二、四〇五番地

三 枝 朝 六

明治三十九年七月一日生

學 歴

一、大正十年三月 佐賀縣藤津郡鹿島尋常高等小學校高等科卒業

職 歴

一、大正十年四月 杵島第二礦採炭夫

一、大正十五年二月 右退職

一、昭和二年二月 相知炭礦採炭夫

一、昭和四年二月 右退職

一、昭和四年三月 杵島炭礦採炭夫現在ニ至ル

賞 罰

一、ナシ

貝島炭礦株式會社大辻炭礦

仕 繰 夫 田 原 市 郎 君

一、表彰事績の概要

資性温厚篤實にして素行亦善良、勤務成績極めて優秀なり。即ち防災團編成と同時に幹部となり、變災に際しては卒先躬行して部下後進に範を示し、又其の指導訓育極めて懇切丁寧にして災害を未然に防止するに努む。就中仕繰技術の優秀なること本炭礦の白眉にして、難個所は挺身之を擔當し事業上貢獻渺ならず。

勤績實に三十四年に亘り恪勤精勵倦むを知らざるが如く、現に大辻鑛業報國會總代として將又隣組々長として業務の上、隣保のために爲すとして可ならざるはなく、全礦從業員の衆望を集め、家に在りては常に敬神崇祖を旨ととして家庭も亦圓滿、日常生活は簡素を保持して貯蓄數千圓を有し、四男五女を撫育し、夫々其の處を得せしめたり。隣保之に倣ひて薰化せらるゝ者又渺しとせず、宜なる哉、社内外の幾多表彰を受くるの光榮に浴したり。

如斯は炭礦從業員として廣く一般の模範とするに足る。

二、履歷の概要

本籍地 廣島縣比婆郡西城町大字大佐九九一番地
現住所 福岡縣遠賀郡香月町大字香月 大辻炭礦
田 原 市 郎
明治二十六年一月十二日生

學 歴

一、明治三十六年三月 廣島縣比婆郡西城尋常小學校卒業

職 歴

一、明治四十年十二月 福岡縣遠賀郡香月大辻炭礦仕繰夫ニ採用セラレ今日ニ至ル
(其間採炭夫ニ轉シタルコトアリ)

賞 罰

一、大正 七年十一月 滿十ヶ年勤績シ業務勉勵ノ廉ニヨリ大辻炭礦ヨリ銀時計一箇ヲ授與セラル
一、昭和 九年十一月 資性温厚業務勉勵ニシテ衛生組長、敬愛會評議員、大辻健康保險組合

議員、大辻防災團幹部トシテ終始一貫公私ニ盡瘁セルノ廉ニヨリ貝島炭礦株式會社々長ヨリ表彰狀竝ニ金一封ヲ授與セラル

一、昭和十年四月

資性温厚ニシテ災害防止運動ニ盡瘁セル廉ニヨリ縣鑛工聯合會總裁ヨリ表彰狀ヲ授與セラル

一、昭和十三年十一月

滿三十ヶ年勤績シ業務格別勉勵ニ付貝島合名會社ヨリ表彰狀竝ニ紋附羽織、金一封ヲ授與セラル

一、昭和十四年二月

多年業務精勵、篤行衆ノ模範トナスニ足ルノ廉ニヨリ勤勞者教育中央會々長ヨリ表彰狀ヲ授與セラル

ラサ島鑛業所

工、長 喜屋武福永君

伍 長 宇良宗實君

一、表彰事績の概要

本ラサ島鑛業所は沖繩縣下にある絶海の孤島にして交通不便且環境不良の一小島に故て燐礦採掘に従事するは従業員の一致團結協力誠心によらずんば到底なし得ざるものにして之れが指導鞭撻に當りたる喜屋武福永、宇良宗實兩君の功績は特筆大書すべきものなり。

喜屋武福永竝に宇良宗實兩君は本島事業創始の明治四十四年十一月に船夫或は鑛夫として就職、爾來誠實勤勉に勞働に従事し倦むことを知らず。多年勤績技能優秀にして他の模範とするに足る。

二、履歴の概要

本籍地 沖繩縣國頭郡羽地村字源河

現住所 沖繩縣島尻郡大東島村 ラサ島鑛業所

喜屋武福永

五十六歳

六八

事 歴

- 一、明治四十四年十一月 ラサ島鑛業所就職
- 一、昭和十五年三月 工長トナリ現在ニ至ル

本籍地 沖繩縣國頭郡國頭村字邊戸

現住所 沖繩縣島尻郡大東島村 ラサ島鑛業所

宇良宗實

五十八歳

事 歴

- 一、明治四十四年十一月 ラサ島鑛業所ニ就職
- 一、昭和九年九月 伍長トナリ現在ニ至ル

山ヶ野鑛山

製錬工手 中島三五郎君

一、表彰事績の概要

君は明治三十五年五月就職以來能く上司の命を遵奉し同僚と順和協調、熱心職務に精勵し嘗て懈怠したることなく偶々在職中社會情勢の變遷甚しく屢々經濟界の變動あり、同僚にして他の誘惑に依り轉職する者多かりしも毅然として毫も心を動かすことなく益々自己の信念を鞏固にし、専念その職務に従事し、技術大に進みその行動と共に深く上司の認識するところあり。中頃工手に拔擢せらる。爾來一層職務に恪勤し兼て又後輩の指導誘掖に力を注ぎ職場の綱紀伸張に意を用ひ、事故發生の絶無を期し全能力の發揮に細心の注意を拂ひ未だ一日の偷安を見たることなく實に勤績三十八年十ヶ月に及び多く其の比を見ず、誠に永年勤績者としてその功績偉大なるものあり。

曾て昭和十年三月鹿兒島縣知事より健康優良鑛夫として表彰を受け、又昭和十年十一月薩摩興業株式會社より永年勤績者として表彰を受く。

又家庭にありては能く和し多數の子女を擧げ教養怠らず何れも社會に活躍しつつあり。

昭和十五年十一月には厚生大臣より國本の培養に資する所尠からざるものとして表彰せらる。

二、履歴の概要

本籍地 鹿兒島縣伊佐郡西太良村針持一、三三五
 現住所 同 縣薩摩郡永野村山ヶ野 鑛山社宅
 製鍊工手 中 島 三 五 郎
 明治十年三月四日生

職 歴

- 一、明治三十五年五月 山ヶ野鑛山製鍊夫拜命
- 一、大正九年二月 製鍊夫長ヲ命セラル
- 一、昭和十年三月 鹿兒島縣知事ヨリ健康優良鑛夫トシテ表彰ヲ受ク
- 一、昭和十年十一月 薩摩興業株式會社ヨリ永年勤績者トシテ表彰ヲ受ク

山ヶ野鑛山

軌道夫 宮内長次郎君

一、表彰事績の概要

明治二十七年五月山ヶ野鑛山坑夫として入社す。性質剛毅にして果敢強健なる體軀と鐵火の如き責任感とは當時既に其の銳鋒を現はし行くところ可ならざるなく、日を逐ふて「監督者を要せざる男」として上司の信任を加へ撓まざる新參者の指導訓化は遂に同僚後輩の敬仰の的たり。大正六年冬軌道夫に拔擢せらるゝや其の職責の重且大なるを自覺し日夜其の技術の修練向上に努め、事故の絶滅を期して精進したる結果年と共に軌條敷觀の技術は圓熟し加之不撓不屈の信念は克く所期の成果を收め四十六年九ヶ月の久しき間「無事故」の好記録を保持することを得たり。

君は夙に坑内勞務者の保健衛生の重要性を認識し體位向上を叫ぶこと久しかりしが、偶々昭和十一年十一月鑛山體操の實施さるるや老軀卒先して之に参加し爾來一日として之を缺げることなく常に若人等をして感奮せしめつゝあり。同鑛山の氣風頓に昂揚せるは君が蔭の力に依るところ尠からざるなり。一方部落に於ては長老として郷黨を率ひ信望篤く克く公共に盡し産金道路の改修企てらるるや卒

先所有地を提供し其の竣工を助成し、家庭に在りては良き父として二男一女を育み産金戦線に送り良き夫として病妻を扶養、一家常に和合團欒す。

君や既に齡七十二を算ふると雖も嬰鑠として壯者に伍し今尙鑛業戰士として第一線に在り、昭和九年三月健康優良鑛夫として鹿兒島縣知事より表彰され、同十一年十一月薩摩興業株式會社より永年勤績者として表彰せらる。入社以來實に四十六年九ヶ月の間世流に惑はさるゝことなく終始一貫然も病氣の爲め缺勤することなく精勵恪勤せるは衆の模範とするに可るものとす。

二、履歴の概要

原籍地 鹿兒島縣日置郡東市來村養母六三六

現住所 同 縣始良郡横川町上ノ字白仁田

軌道夫 宮内長次郎

明治三年十月十二日生

職歴

一、明治二十七年五月 山ヶ野鑛山坑夫拜命

一、大正七年六月 同山軌道夫ニ轉ス

一、昭和九年三月 鹿兒島縣知事ヨリ健康優良鑛夫トシテ表彰ヲ受ク

一、昭和十年十一月 薩摩興業株式會社ヨリ永年勤績者トシテ表彰ヲ受ク

明治鑛業株式會社平山炭礦

仕 繰 夫 鹽 崎 磯 吉 君

一、表彰事績の概要

大正八年三月明治炭礦に掘進夫として就職、爾來克く上司の命を奉じ一意専心業務に精勵し、その卓越せる技倆と圓滿なる人格とは當時創業期の必須人材として當平山炭礦の囑望する處となり。昭和七年八月迎へられて當礦仕繰夫に就職す。以來聊かも其の職に悖ることなく孜々として精勵其の業績たるや洵に偉大なるものあり。其の概要左の如し。

一、轉坑當時安全運動の振はざるを憂ひ一般勞務員に該運動の重要性を力説し同志を叫合昭和十年六月平山第二坑安全自治隊を組織し卒先防炎成績の向上に寢食を忘れ全力を傾倒、災害撲滅に粉骨碎身盡瘁し漸く其の面目を一新せり。昭和十一年四年平山防災會の設立を見るや推されて安全専任委員となり回を重ねをこと數回にして今日に及べり。其の間君の事を處するに眞摯たるの態度は到底常人の望んで達し得ざるものにして、當所安全運動の徹底今日の域に至りたるは洵に君の献身的努力に負ふ處頗る多し。

二、優秀なる技能と圓滿高潔なる人格とは後輩を指導するに父兄愛を以てし現在君の訓育を受けたる當所中堅勞務員より齊しく慈父と仰がれ相携へて明朗、平山の建設に貢献しつゝあり。

三、昭和十二年十月以降當礦に於ける産業報國精神顯揚機關たる鑛業報國信和會委員を委嘱され回を重ね今日に至るまで圓滿なる人格は偏することなく思想穩健、判斷亦常に中庸を持し、専ら會務に盡瘁し斯會の向上發展に資する處洵に大なるものあり。其他平山修養團町内常會等の幹部に任せられ、滅私奉公克く其の本分を全うしつゝあり。

四、君は又敬神崇祖の念極めて厚く併而一家團圓の美風は常に近隣の賞揚措かざるゝ處にして洵に衆の模範とするに足る。

五、斯の如く君は鑛業報國に盡瘁すること二十有餘年にして曩には昭和八年福岡鑛工聯合會より模範従業員として表彰を受け、亦昭和十五年紀元の佳節には明治鑛業株式會社より勞務員至高の名譽たる長老に選任され加へて本年一月十四日には優良鑛山従業員顯彰會より功勞者として感謝狀を授與されるに至れり。

二、履歴の概要

本籍地

福岡縣嘉穂郡白井村大字平山七五六

現住所 福岡縣嘉穂郡白井村 平山鑛業所第二坑社宅

鹽崎磯吉

明治二十三年十月十八日生

學 歴

一、明治三十三年三月 愛媛縣周桑郡吉井尋常小學校卒業

職 歴

一、自明治三十三年三月 至大正八年三月 愛媛縣周桑郡吉井村今在家ニ於テ農業に従事

一、大正八年三月 福岡縣嘉穂郡田村明治炭礦ニ掘進夫トシテ就職ス

一、昭和七年八月 嘉穂郡白井村平山炭礦第二坑ニ轉坑仕練夫トシテ現在ニ至ル

貝島炭礦株式會社貝島第二鑛業所岩屋炭礦
仕上工 池田鐵藏君

一、表彰事績の概要

薄層採掘の本炭礦に於ては從來其の生命たる截炭機用ピツクの磨滅防止防法としてピツク先端にステライト熔接を施用し來れり。然るに今事變關係にて輸入品たるステライト入手困難となり、之が措置に腐心しつゝある時偶々昭和十二年十一月選ばれて擔當仕上工となるや日夜研究の結果終に熔接工程の能率向上を完成し、從來一週一萬六千本の熔接量を一躍二萬六千本に増加せり。更に愈々輸入困難の加はるや之が代用品の研究を怠らず、遂に汽罐用ロストル（白洗鐵屑）廢品を加工して現在輸入杜絶せるステライトの代用熔接に成功し爲に現在十六臺の截炭機の能率的使用を持續して當礦増産の障害を除去することを得たり。

右者事業に及ぼす影響は勿論なるも事變下物資節約代用品研究の點に於て一般に裨益する所甚大なりとす。

二、履歴の概要

本籍地 佐賀縣東松浦郡久里村大字久里五四番地
現住所 佐賀縣東松浦郡嚴木村大字本山二七二番地

池 田 鐵 藏

明治二十二年十月四日生

職 歴

- 一、大正五年八月七日 入社發電所運轉手拜命
- 一、大正十四年五月三日 三坑旋風機運轉手ニ轉職
- 一、昭和十一年十一月九日 本坑仕上工ニ轉職現在ニ至ル
- 一、昭和十三年十一月三日 考案優秀ノ故ヲ以テ會社ヨリ表彰ヲ受ク

夕張礦第一礦千歲坑
支柱夫 坂 本 榮 三 君

一、表彰事績の概要

一、事業上の業績

君は大正九年六月二十九歳にして夕張礦神通坑に採炭夫として採用せられ同十一年四月千歲坑に轉じ、常に採炭夫の先山として技術的によく後輩の指導誘掖に努めて出炭の能率を高め一般従業員の尊敬の的となり、遂に昭和七年五月當社優良勞務者として表彰せらるゝに至れり。

又、昭和十年七月支柱夫に轉じては忠實勤勉技術の練磨に努めたる結果最も優秀なる支柱夫として常に困難なる作業其他變災時の取明け作業等には卒先之に當りて完遂せり。出稼に於ても常に好成績を示し昭和十四年度の如きは一ヶ年無缺稼の故を以て昭和十五年三月三十日札幌地方鑛業報國聯合會長より皆勤章を授與せらるゝに至れり。

尙昭和十六年一月より三月込施行の全國増産強調期間に當りては卒先無缺稼無事故による増産を期すべく従業員に呼びかけ一月中に於ては自らの無缺稼は勿論他従業員の出稼をも良好ならしめ他坑

に比し其の増産率大にして且つ無事故なる良成績を得たり。

二、災害防止に對する業績

君は夙に坑内に於ける悲惨なる災害の事例を目撃するにつれ安全運動の最も必要なるを痛感し、而も之は一般従業員各自の自覺により防止すべきを感じ、昭和十年六月千歳坑災害防止會を設立せらるゝや會長に就任し爾來今日に至る迄約六ヶ年間會長として従業員の團結を計り、一般従業員殊に新採用者の指導訓育に努め安全運動に貢獻する處大にして其成績大いに上りしを以て、昭和十五年六月二十五日鑛業所長より感謝狀を授與せらるゝに至れり。

三、部落に於ての功績

君は部落に在りては昭和三年以來部落伍長として部落の改善、家庭の世話等獻身的努力を傾注し部落の父として尊敬せらるゝに至れるが、一方各家庭に對し常に貯金思想の鼓舞に努め浪費を戒め貯蓄報國を説き生活を改善して無駄の排除をなす等成績大いに上りたるを以て昭和十四年七月十一日札幌逓信局長より郵便貯金勸奨に盡瘁せる故を以て感謝狀を贈らるゝに至れり。

現在は衆望を負ふて町内會の經濟部長に選任せられ町内に於ける生活改善貯蓄の奨励に努めつゝあり。

四、性格及家庭

君は資性温厚篤實にして克く上司の命を奉じ職務に精勵恪勤家庭にありては一男五女の内長女、次女は他に嫁して一家の主婦となり、現在は一男三女の良き父として圓滿なる家庭をつくれり。

二、履歴の概要

本籍地 北海道夕張町字高松一區二四七
現在所 北海道夕張町字高松三區二五七

支柱夫 坂 本 榮 三

明治二十五年八月四日生

職 歴

一、大正九年六月九日 北海道炭礦汽船株式会社夕張礦神通坑ニ採炭夫トシ採用サル

一、大正十一年四月 會社ノ都合ニ依リ千歳坑ニ轉業現在ニ至ル此ノ間採炭夫竝ニ支柱夫ニ従事ス

一、昭和十年六月 千歳坑災害防止會設立ト同時ニ會長トシテ就任現在ニ至ル

賞

一、昭和七年五月十一日 操行優秀、精勵、能率拔群ノ故ヲ以テ炭礦汽船北海道支店ヨリ表彰

狀ヲ贈ラル

一、昭和九年七月一日 帝國在郷軍人會夕張礦分會第八班長橫江四平殿ヨリ感謝狀ヲ贈ラル

一、昭和十四年七月十一日 札幌遞信局長遠藤俊一殿ヨリ郵便貯金勸奨ニ盡瘁セル故ヲ以テ感謝狀ヲ贈ラル

一、昭和十五年三月三十日 昭和十四年中皆勤ノ故ヲ以テ札幌地方鑛業報國聯合會會長安達祥三殿ヨリ表彰狀ヲ贈ラル

一、昭和十五年六月二十五日 安全運動ニ貢獻セル故ヲ以テ夕張鑛業所長古谷金一郎殿ヨリ感謝狀ヲ贈ラル

主ナル表彰狀其他ノ寫左ノ如シ

感謝狀

千歲坑災害防止會長 坂 本 榮 三

右者昭和十年六月千歲坑災害防止會設立ト共ニ會長ニ選任セラレ爾來滿五ケ年間安全運動ニ貢獻セルヲ以テ金一封ヲ贈リ之ヲ感謝ス

昭和十五年六月二十五日

夕張鑛業所長 右 谷 金 一 郎

表彰狀

夕張礦 坂 本 榮 三

操行優秀ニシテ精勵衆ニ超エ能率拔群ナリ仍テ賞牌ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和七年五月十一日

北海道炭礦汽船株式會社北海道支店

表彰狀

坂 本 榮 三

右者昭和十四年中皆勤シ其ノ成績優秀ナリ仍テ皆勤章ヲ贈呈シ之ヲ表彰ス

昭和十五年三月三十日

札幌地方鑛業報國聯合會會長

正五位勳四等 安 達 祥 三

感謝狀

坂 本 榮 三 殿

多年郵便貯金ノ勸奨ニ盡瘁セラレ其ノ效績寔ニ顯著ナリ茲ニ郵便貯金五十億圓突破ニ際シ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十四年七月十一日

八四

札幌逓信局長

從四位勳五等 遠藤 俊一

感謝狀

當班事業副部長トシテ就任以來克ク班ノ向上發展ニ班員指導誘掖ニ努力セラレ今日ノ隆盛ヲ見ルニ至リタル功績顯著ナリ仍テ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和九年七月一日

帝國在郷軍人會夕張礦分會第八班長

横江 四平

坂本 榮三殿

夕張礦第二礦第三區
定夫 宮原 熊之助君

一、表彰事績の概要

一、業務上の業績

君は大正十三年五月夕張礦第二礦第三區機械夫に採用せられ捲揚機、唧筒、扇風機等各種機械の運轉に従事し且つ機械夫の團體たる機友會を組織して相互の親睦と技術の向上を計る等其の間緻密なる頭腦と優秀なる技術による圓滑なる運轉により採炭作業に好影響を與へて能率の増進に努めたるの故を以て昭和十三年五月當社優良勞務者として表彰せらるゝに至りしが、昭和十五年七月石炭坑に於て最も重要視せらるゝ坑口搜檢者に拔擢せられ職務に忠實にして常に入坑者の一人一人に對し懇切丁寧に搜檢を行ひ過ちなからんことを期しつゝ現在に至れり。

二、災害防止に對する業績

君は亦昭和九年五月勞務者の自發により第二礦第三區炎害防止會設立せらるゝや幹事長に選任せられ會長を輔佐して一意災害の防止に又新採用者の教育に努め、昭和十五年三月衆望を荷つて遂に同

八五

會長に選任せらるゝや燃ゆるが如き熱意を以て従業員一千餘名の指導訓育に當り災害の根絶に邁進せし結果其の成績著しく向上し昭和十五年十二月鑛業所長より表彰せらる。

三、部落に於ける功績

君は部落に在りては昭和二年四月夕張礦青年團高松支部の修養部長に同六年四月同副支部長同十年四月同支部長となり。又昭和四年同部落の修養團幹事長として常に職場に於ける熱意を部落に於ても發揮し、青年諸氏の智識の向上と修養に努め其の功績により昭和四年一月、昭和八年九月、同十一年九月の三回に亘り表彰狀又は感謝狀を贈らるゝに至れり。現在は町内會社教化部長として部落各人の指導教化に盡しつゝあり。

四、性格及家庭

君は資性潤達にして廉直、進取の氣象に富み事に當り熱心にして研究心深く何事も完遂せざれば止まざる決意を有す。家庭に在りては夫婦圓滿二男三女の良き父として親しまる。以上の如く時局を深く認識し職分奉公の念に燃え翼賛運動に邁進しつゝありて之が職務に於て又災害防止に於て將又部落に於て行ふ處可ならざるはなく實に君の如きは衆の模範とするに足る。

二、履歷の概要

本籍地 北海道夕張郡夕張町高松四區百七十五號

現住所 北海道夕張郡夕張町高松四區百七十五號

坑内雜夫 宮原熊之助

明治三十九年二月三日生

學 歴

一、明治四十五年四月 秋田縣雄勝郡三梨隙常高等小學校尋常科第一學年入學

一、大正九年三月 同校高等科卒業

一、昭和九年一月 一月三日ヨリ五日間山田市皇學院ニ於テ修養團講習會受講

職 歴

一、自大正九年四月 鄉里秋田ニ於テ農業ニ從事ス

一、至大正十三年五月 夕張礦機械夫ニ採用セラレ第二礦三區ニ勤務シ昭和十五年七月坑口搜

一、大正十三年五月 檢勤務ヲ命セラレ今日ニ至ル

一、昭和六年四月 夕張礦青年團東高松支部副支部長ニ選任セラレ昭和十一年四月停年辭

任ス

- 一、昭和九年五月 夕張第二礦三區災害防止會創立ト共ニ幹事長ニ選任セラレル
- 一、昭和十五年三月 同會長ニ選任セラレ今日ニ至ル
- 一、昭和十五年十二月 夕張礦高松四區町内會社會教化部長ニ選任セラル

賞 罰

- 一、昭和四年十月 夕張礦青年團東高松支部長ヨリ事業精勵ノ故ニヨリ表彰サル
- 一、昭和八年九月 夕張町聯合青年團長ヨリ優良團員トシテ表彰セラル
- 一、昭和十一年九月 夕張青年團長ヨリ支部長トシテノ功績ニヨリ感謝狀ヲ贈ラル
- 一、昭和十三年四月 災害防止運動ニ熱誠ナル故ヲ以テ夕張礦本坑採炭主任ヨリ感謝狀ヲ贈ラル
- 一、昭和十三年五月 北海道炭礦汽船株式會社北海道支店ヨリ優良従業員トシテ表彰セラル
- 一、昭和十四年四月 石狩坑災害防止會ヨリ五ケ年間外傷性公私傷の無者トシテ表彰サル
- 一、昭和十四年四月 夕張第二礦三區主任ヨリ五ケ年間災害防止運動ニ努力シタル故ヲ以テ感謝狀ヲ贈ラル
- 一、昭和十五年五月 健康保險組合ヨリ滿五ケ年間無傷病ニヨリ表彰セラル

一、昭和十五年十二月 夕張礦業所長ヨリ安全運動ニ盡瘁ノ故ヲ以テ表彰セラル

一、刑罰ヲ受ケタルコト無シ

一、兵役ニ關係無シ

主ナル表彰狀其他ノ寫左ノ如シ

表 彰 狀

宮 原 熊 之 助

君ハ夙ニ本支部ノ振興發展ニ盡力ナシ諸事業ヲ遂行スルニ率先是ニ當リ其ノ實ヲ舉グ今日ノ隆盛ヲ看ルニ至ルハ一重ニ君ガ不斷ノ努力ニ待ツ所多シ今秋此處ニ十週年記念式ヲ舉行スルニ當リ多年ノ功績ヲ表彰ス

昭和四年十月八日

夕張礦青年團東高松支部長

能 勢 莊 吉

表 彰 狀

夕張礦青年團員

宮 原 熊 之 助

明治三十九年二月三日生

資性善良着實ニシテ家業ニ精勵シ常ニ修養ニ努メ倦マス夙ニ所屬青年團々勢ノ進展ト後輩ノ指導誘掖ニ盡瘁スルトコロ久シ眞ニ郷黨ノ模範タルヲ認メ茲ニ之ヲ表彰ス國家非常ノ際更ニ一段ノ奮勵ヲ望ム

昭和八年九月二十四日

夕張町聯合青年團長

從六位勳四等 松 尾 孝 之

感謝狀

昭和十年四月當團東高松支部長就任以來熱誠克ク支部ノ向上發展ニ團員ノ指導誘掖ニ努力セラレ今日ノ隆盛ヲ見ルニ至リタル功績顯著ナリ仍而茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十一年九月二十六日

夕張礦青年團長

藤 江 信

宮原熊之助殿

感謝狀

昭和九年五月石狩坑災害防止會創立以來幹事長ノ要職ニ任シ常ニ災害防止運動ノ先驅トナリ熱誠克ク會員ノ指導誘掖ニ盡瘁シ其ノ功績顯著ナリ仍テ茲ニ記念品ヲ贈リ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十三年四月二十日

夕張礦本坑採炭主任

門 奈 正

宮原熊之助殿

表彰狀

夕張礦

宮原熊之助

誠實業務ヲ勵ミ其ノ成績優良ニシテ操行亦衆ノ範トスルニ足ル仍テ賞牌ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和十三年五月十一日

北海道炭礦汽船株式會社北海道支店

表彰狀

自昭和九年三月十六日至昭和十四年三月十五日ノ滿五ケ年間外傷性公私性皆無ノ成績ヲ舉グ得タルハ常ニ災害防止技術ノ練磨ニ専心努力セル賜ト認ム茲ニ本會創立五週年式典ヲ舉ケルニ當リ記念品

ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和十四年四月九日

石狩坑災害防止會

宮原熊之助殿

表彰狀

宮原熊之助

貴下ハ平素ヨリ衛行ニ留意シ災害ヲ防止シテ滿五年以上無傷病ノ榮譽ヲ獲得セラレタリ洵ニ慶賀ニ堪エズ依テ茲ニ表彰狀竝ニ記念品ヲ贈リ祝意ヲ表ス

昭和十五年五月二十三日

北海道炭礦汽船健康保險組合

表彰狀

第三區災害防止會長

宮原熊之助

右者昭和九年五月第三區災害防止會設立セラル、ヤ幹事長ニ就任シ昭和十五年三月同會長ニ選任セラレ克ク安全運動ニ盡瘁セルハ他ノ模範トスベク依ツテ金一封ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和十五年十二月十一日

夕張礦業所長

古賀健太

感謝狀

宮原熊之助

君ハ昭和九年五月石狩坑災害防止會幹事長ニ選任セラレ爾來其ノ任ニ在ル事五期常ニ災害防止技術ノ練磨ニ専心努力率先會員ノ模範タリ三區今日ノ隆盛發展ニ貢獻シタル其ノ功績甚大ナリト謂フベシ茲ニ創立五週年記念式ヲ舉行スルニ當リ記念品ヲ贈リ深甚ノ謝意ヲ表ス

昭和十四年四月九日

夕張第二礦三區主任

音藤實雄

北海道炭礦炭礦汽船株式會社幌内礦

掘進夫 高田 幸吉君

一、表彰事績の概要

一、業務上の業績

明治三十五年四月十日幌内炭礦に採用せられ、初坑外にて炭車の油差しを爲し轉じて坑内馬丁を更に音羽坑の坑内運搬夫に従事せり。斯て數年先輩につきて熱心に稼働せり。

明治四十一、二年頃採炭夫に轉じ當時三人一組にて普通約十車の採炭を普通としたるに君はその同僚と熱心に稼働し、多きは一日約二十車を採掘し最高水準を示したり。斯くて採炭技倆漸く圓熟せるを以て作業現場に於ては君を陣頭に立て他を倣はしめると謂ふが如く中堅採炭夫として君が地位は重きを加へたり。

其の業務に熱心且つ緻密俊敏なることは衆評の一致するところ明治四十四年懇望されて音羽坑の支柱夫となる。

支柱技術に於ても亦君の本領を發揮しその弛まぬ工夫と修練とは遂に之を凌ぐ者無き迄に練達し、

主要運搬坑道として炭車の往復頻繁なる音羽坑大坑道其他重要坑道は勿論作業困難な箇所には必ず選ばれて其の衝に當れり。係員の命の下縦横腕を揮ひ能率の増進安全保持に勉め音羽坑の出炭には直接間接裨益するところ甚大なるものあり。其後第一次世界大戰の好況に會ひ採炭夫の所得激増せしに拘はらず、君は上司の信倚に應へ収入の少なき支柱夫の職に甘んせしは金錢を度外視し職責に生きんとする精神の發露にして収入に囚はれ移動常なき炭礦勞務者中にありて、志操の堅實節操の固き常人のよくなし得る所に非ず。

聽て昭和五年音羽坑の廢坑布引坑の擴張せらるゝに及び布引坑に轉坑し、布引堅坑底、入氣坑、斜坑馬の背等重要にして故障の頻發し易き箇所には選はれて能く職責を果し遺憾なくその技能を發揮せり。

偶々支那事變勃發して以來時局の逼迫と共に石炭の増産は焦眉の急務を告ぐるに當り、採炭の準備的作業遅るゝことあらんか増産に影響するところ尠しとせず、君の優秀なる技倆と旺盛なる責任觀念は更に高く評價せられて四度掘進夫に轉じたり。

常に先山として後輩、未経験者の指導誘掖に寧日なく活躍せり。最近半島人勞務者多數入坑し言語意志の疎通兎角滞り勝にて余人の厭ふにも拘らず獻身之を輔導訓育し來りその業績の顯著なるは亦多とすべき事なり。

斯くて君は支柱、堀進將又運搬に最高水準の技倆を示し幾多の功績を重ねつゝ幌内礦に在籍稼働すること三十九年の永きに及べり。

此の間克く災害の防止に努め、又衛生に注意し、齡既に五十歳を過ぐると雖も身體強壯にして、作業能率亦三十代の壯者を凌ぎ、當礦に就職以來休業せることを聞かざるも殊に最近五年間に於て微傷の爲め數日間缺稼したる外皆勤と謂ふ驚異的記録を示せり。

二、部落團體に於ける功績

君は職場、部落に於ける團體的行動に於ても亦幾多の偉功を残せり。即ち明治の末期地元寺院の主宰する佛教青年團の活動漸く衰退の一路を辿るや、年齢若冠の君は向學の志もだし難く且は一般に低級なりし鑛山勞務者の智識向上人格陶冶の必要を痛感し、明治四十二年同志を糾して自治的青年團を結成し推されて理事となりしが、君の獻身的努力に依り各部落に青年團支部の設置を見るに至れり。

公休日には必ず小學校教師、會社幹部等を招きて講演會を催し、嚴冬と雖も夜學を中絶することなく、炭礦勞務者の教化智識の向上に資したる所幾何なるを知らず、斯くて青年團の活動及事業は漸く旺盛且つ繁劇を加へしを以て之を統合して指導系統整備の要あり。大正三年遂に各部落青年團を會社に引繼ぎて幌内礦青年團を結成し今日の盛大を致したり。

昭和二年勞資協調を目的とする一心組合（現産業報國會一心組合）の委員に撰ばれ又一心組合伍長總代に撰ばれること數知れず。勞資協調融和に資するところ多大にして、現在も尙伍長の任にあると共に幌内礦奔幌内町内會聯合隣保班長として重きをなし部落民尊敬の的たり。

更に君は災害の根結を期し同志を募りて勞務者の自治的團體たる布引坑災害防止研究會の設立に盡瘁せしが、昭和九年二月之が創設を見るや君はまた／＼會長の椅子を後輩に譲りて表面に立たず評議員として援助し來りしも、布引坑六百の勞務者は三代目の會長として君の出馬を懇請現在同會々長の重職にありて衆望を一身に集め居れり。君が三十九年の永きに亘り移働常なき炭礦勞務者間にありて毅然として稼働し來れるその精神力非凡と謂ふべく、其の間勞務者の教養、災害の防止に力を盡す等その高潔なる人格は衆の凡く尊敬するところにして誠に産業報國、職域奉公の一念を貫くものと謂ふべし。

三、性 格

君は幼にして弟妹の面倒を見つゝ兩親に孝養を盡して遺憾なく不平一つ洩さず黙々として精勵し、人の苦痛を己の苦痛とし、義理人情の深く濃やかなること到底筆舌の盡す所に非ず。作業上は固より私生活に於ても常に人の和に意を用ひ上に従ひ下を愛し、その圓滿なる人格は接する人をして春風胎蕩たらしむ。亦妻に死別してより愛娘の上を思ひて再び娶らず飲酒、喫煙の事なく品行方正部

落に於て現場に於て人に敬愛せらる。而も君の謙讓の美德高邁なる識見は人をして感服せしむ。社會人として勞務者として將又家庭の人として君の人格は推獎するに足る。

四、家庭の狀況

君の父久藏は明治三十年來山してより大正の末年迄稼働し、去る昭和十二年十二月老衰により病歿し、母ムメは七十九才の高齡を以て今尙嬰孺たり、君は弟妹三人を愛すること深く幼少より一心不亂會社と家庭の爲め奮闘を續けたり。妹は幼にして没し弟二人は亦兄の薫陶下に成育し現に幌内礦に勤務中なり。

君は二十五才にして妻朝子を娶り大正四年一女ハツエを設け、夫婦仲睦まじく家庭平穩たりしが好事魔多く妻朝子は大正十年五月不幸不歸の客となる、其後幾度となく再婚を勧めらるゝも愛兒の上を想ひて謝絶し血の滲む思ひを以て鰥に甘じ、早朝に起きて坑内稼働に従ひ家庭に歸りては疲勞の身を憩ふ間もなく兩親に孝養を捧げ親を失ひたる愛兒の養育に専念し、其の忍苦と精進は常人の沙汰に非ざりき。

愛兒ハツエは幌内小學校卒業後幌内礦家政塾に在學すること七年研究科を卒へ、家事の一切を修得し、同家庭にありて祖母と父に仕へて孝養の譽高く部落民の羨望の的たり。尙家庭生活は常に質素にして現在相當額の貯蓄あり。

二、履歷の概要

本籍地

北海道空知郡三笠山村大字幌内村炭山番外地

現住所

北海道空知郡三笠山村大字幌内村字奔幌内

堀進夫

高

田

幸

吉

明治二十三年二月八日生

學業

一、明治三十一年三月 幌内尋常小學校尋常科二年修了

職業

一、明治三十五年四月 北海道炭礦汽船株式會社幌内礦ニ採用セラレ現在ニ至ル

賞罰及公職

一、明治四十一年八月 滿五年以上勤績木杯一個金一圓 受領

一、大正元年八月 滿十年以上勤績木杯一組金二圓也受領

一、大正八年五月 優良勞務者トシテ表彰セラル

一、昭和二年十二月 幌内礦一心組合委員ニ當選ス

- 一、昭和四年十一月 三笠山村長ヨリ精神作興委員ニ囑託サル
 - 一、昭和六年一月 三笠山村長ヨリ優良勞務者トシテ表彰サル
 - 一、昭和九年七月 北海道石炭鑛業會ヨリ永年勤績勞務者トシテ表彰サル
 - 一、昭和十五年十一月 三笠山村長ヨリ永年石炭鑛業功勞者トシテ表彰サル
- 主ナル表彰狀及感謝狀ノ寫別紙ノ如シ

幌内礦

支柱夫 高田 幸吉

品行方正ニシテ精勵衆ニ越エ能率拔群ナリ仍テ賞牌竝ニ酒肴料ヲ贈リ之ヲ表彰ス

大正八年五月十一日

北海道炭礦汽船株式會社北海道支店

三笠山精神作興第六區實行委員ヲ囑託ス

昭和四年十一月十日

三笠山村精神作興會長

尾崎 春松

高田 幸吉殿

感謝狀

貴下ハ幌内礦一心會委員トシテ一期間常ニ協調ノ精神ヲ以テ會務ニ盡力シ本礦事業ノ發展ニ寄與セラレシ所尠カラス其功績大ナリ茲ニ記念品ヲ贈呈シ聊カ謝意ヲ表ス

昭和四年十二月十八日

北海道炭礦汽船株式會社北海道支店

幌内礦長 堂徳清之助

高田 幸吉殿

表彰狀

幌内礦鑛夫

高田 幸吉

夙ニ本道ニ移住シ一意採炭業務ニ從事シ刻蓄精勵儉素克ク其ノ分ヲ守リ家庭圓滿ニシテ隣保ノ交誼ニ厚ク以テ衆人ノ敬慕ヲ受クルニ至ル仍テ本村表彰規程ノ條項ニ照查シ之ヲ推獎シ木杯一組ヲ贈呈ス今後尙ホ一層ノ奮勵ヲ望ム

昭和六年一月十二日

三笠山村長

尾崎 春松

褒 状

北海道炭礦汽船株式會社幌内礦

高 田 幸 吉

右者明治三十五年四月以降同一炭礦ニ勤績シ精勵三十二年ノ久シキニ至レルハ他ノ模範トスルニ足
ル仍テ記念品ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和九年七月十四日

北海道石炭鑛業會

表 彰 状

高 田 幸 吉

多年本村ニ居住シ國家産業ノ中樞タル石炭鑛業ニ從事克ク其ノ使命ヲ重ジテ献身精勵且後輪ノ指導
誘掖ニ努メ業績ノ進展ニ寄與セル功鈔カラス本日茲ニ光輝アル紀元二千六百年ヲ迎ヘ本村開基六十
年記念式典ヲ舉クルニ當リ記念品ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和十五年十一月三日

空知郡三笠山村長

村 田 要 助

北海道炭礦汽船株式會社空知礦

堀 進 夫 秋 山 勝 次 郎 君

一、表彰事績の概要

平素職場に在りては災害防止會副會長として作業に災害防止に良く後輩を指導誘掖して係員を援助
し、外部落に在りては一心組合副組合長として其の職責を全ふし、誠實にして謹嚴、よく衆の信望を
集めつゝあり。偶々昭和十五年二月十四日龍田坑瓦斯爆發に依る變災起るや率先入坑を申出で同僚を
督勵、迅速果敢なる行動を續けて罹災者の救助、收容に當り其の奮闘振りは全く滅私奉公の發露にし
て何人も敬服せる所なり。而して作業終了し交代時となるも自分は一人現場に残り各方面の偵察に従
事して其の狀況を係員に報告し同僚に説明して申次ぎを確實ならしむる等其周到なる努力は各係員を
感激せしめたり。

同坑水没後の取明作業に際しては八ヶ月の長期に亘り一日の缺勤もなく先山として作業工程の促進
に努め又瓦斯温度等の變況に依り稍々もすれば人心動搖勝なりしもよく他従業員を鎮撫激勵して係員
を援助する等其の功績は見るべきものあり。本災害取明作業を豫定の如く終了し得たるは實に君の獻

身的努力に依る所不尠ざるものあるは衆の確認するところにして賞讃に値するものと言ふべし。
尙昭和十一年五月十一日に勃發せる同坑の同様なる變災に際しても前述に劣らざる功績を擧げ當時の關係者を感動せしめたる事實あり。

而して本人は明治四十一年五月十四日堀進夫として採用せられ、昭和五年六月龍田坑開坑に着手せらるゝや選抜されて同坑に轉じ所謂先山として活動せられ今日に至る迄實に三十三年間の永年勤績者にして、此の間に於て或は災害防止會副會長として或は一心組合副組合長として讃ふべき功績は實に甚大なり。

加ふるに秋山家は祖父時代より父、本人、長男の四代を通して當礦勤績の當代稀に見る精勤一家にして現に父專太郎は當社の恩給者として健在し、長男良男は興津坑定夫として勤務中なり。其の稼働状態を見るも一家揃つて年中殆んど無缺勤の職務精勵者にして衆の模範とするに足るものと謂ふべし勝次郎本人は性温順明朗にして堅實素行又可良、近隣の風評も極めて良行家庭頗る圓滿なり。

二、履歴の概要

本籍地 空知郡歌志内町字佐久志
現住所 空知郡歌志内町字佐久志

堀進夫 秋山勝次郎

明治二十六年九月一日生

學歴

一、明治三十七年三月 歌志内尋常高等小學校尋常科卒業

職歴

一、自明治三十八年四月 鐵道院歌志内機關庫掃除夫トシテ勤務

一、自明治三十八年十一月 至明治四十一年四月 歌志内郵便局集配人トシテ勤務

一、明治四十一年五月 空知礦舞鶴坑堀進夫トシテ採用セラレ昭和五年六月龍田坑ニ轉ジ現在ニ至ル

主ナル表彰狀其他ノ寫左ノ如シ

空知礦

堀夫 秋山勝次郎

滿十五年以上勤績ニ付年功慰募金五圓竝ニ記念品ヲ贈與シ其ノ精勤ヲ彰ス

大正十三年五月十一日

北海道炭礦汽船株式會社北海道支店

一、鐵瓶一個 彰狀

昭和三年度中貴下ハ怪我モナク病氣ニモ罹ラレナカッタノハ平素如何ニ衛生ト災害豫防ニ注意セラレタカヲ示スモノデアリマシテ誠ニオ目出度イコトト存ジマス依テオ祝ノ印トシテ粗品ヲ呈シマス

昭和四年五月十九日

北海道炭礦汽船健康保險組合

秋山勝次郎殿
表彰狀

空知礦

秋山勝次郎

勤績二十年當社ノ爲ニ精勵セラル仍テ其ノ勤勞ヲ表彰ス

昭和年五月十一日

北海道炭礦汽船株式會社北海道支店

彰狀

昭和七年度中貴下ハ怪我モナク病氣ニモ罹ラレナカッタノハ平素如何ニ衛生ト災害豫防ニ注意セラレタカヲ示スモノデアリマシテ誠ニオ目出度イコトト存ジマス

依ッテオ祝ノ印トシテ粗品ヲ呈シマス

昭和八年五月三十一日

北海道炭礦汽船健康保險組合

秋山勝太郎殿
褒狀

北海道炭礦汽船株式會社空知礦

秋山勝次郎

右者明治四十一年五月以降同一炭礦ニ勤績シ精勵シ精勵二十六年ノ久シキニ至レルハ他ノ模範トスルニ足ル仍テ記念品ヲ賜リ之ヲ表彰ス

昭和九年七月十四日

北海道石炭鑛業會

秋山勝次郎

感謝狀

右者自昭和八年十二月期間現場懇談會委員トシテ災害ノ防止並ニ能率増進ニ貢獻セラレタル所尠カラス

仍テ茲ニ厚ク感謝ノ意ヲ表ス

昭和九年六月十日

北海道炭礦汽船株式會社北海道支店

空知礦長 關 川 潔

表 彰 狀

空 知 礦

秋 山 勝 次 郎

操行優秀ニシテ精勵衆ニ超エ能率拔群ナリ
仍テ賞牌ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和十年五月十一日

北海道炭礦汽船株式會社北海道支店

三菱美唄礦業所

仕 練 夫 鳴 海 勝 治 君

一、表彰事績の概要

一、大正四年九月當所仕練夫として就職爾來勤績滿二十五年六ヶ月其ノ間専心業務ニ精勵格勤し常に同僚より「煽風機」の尊稱を奉らるゝ程出稼成績拔群眞に職分奉公の誠を效せるものと言ふ可く衆人の範たり。

二、職場に於ける技倆亦斷然頭角を顯し、常に大先山として卒先挺身難作業に當り、克く上司を輔佐し後輩の指導誘掖に努め上下の信望を一身に聚む。殊に大正十一年十月當所第三坑、翌十二年十二月第一坑に於ける坑内炭層自然發火に當りては、何れも逸早く馳せ參じ、前者は二日間後者に際しては五日間に亘り、不眠不休獻身的に消火作業に従事し遂に災害を未然に防止したるが如きは、同人の旺盛なる責任感と、克く苦難に耐ふる偉大なる犠牲的精神の發露の一端にして萬人等しく其の職域奉公の至誠に感激驚嘆せざるはなかりき。

三、資性温厚篤實にして勸儉力行、尙公共事業に當りては獻身之が達成の爲努力し夙に部落民の景仰

欽慕の的たり。

昨年三月推されて當所協和會代議員並に同會理事に當選、全山勞務者の生活刷新並に福祉の増進に一段と盡瘁せり。

尙當所第三坑自彊團委員として保安運動にも全力を傾注し、同坑の負傷率を全山隨一に低下せしめたるは偏に其の功に負ふ所多大なり、されば昨年五月優良従業員の第一人者として當所より表彰を受く、家庭亦至極圓滿にして多數の子女を擁せるに不拘勤儉貯蓄を成し、既にその額數千圓を超え子女の教育に特に留意する等唯に全山勞務者の好箇の範たるに留らず、非常時局下全産業人の龜鑑とするに足る。

一、履歴の概要

本籍地 北海道忍路郡鹽谷村百十一番地
現住所 北海道空知郡美唄町字美唄

仕 練 夫 鳴 海 勝 治

明治二十五年八月七日生

學 歴

一、明治三十五年三月 岩手縣東盤井郡長島尋常小學校卒業

職 歴

一、自明治三十五年四月 岩手縣東盤井郡長島村ニ於テ農業手助
至同三十九年五月
一、自明治三十九年八月 岩手縣東盤井郡木老鑛山ニ於テ鑛夫ニ從事
至同四十年九月
一、自明治四十一年八月 北海道小樽市ニ於テ漁夫ニ從事
至大正四年九月
一、大正四年九月 三菱美唄鑛業所仕練夫トシテ入所現在ニ至ル

賞 罰

一、大正十二年五月 三菱美唄鑛業所ヨリ勤績表彰セララル
一、昭和三年三月 三菱美唄鑛業所ヨリ勤績表彰セララル
一、昭和十年五月 三菱美唄鑛業所ヨリ勤績表彰セララル
一、昭和十五年五月 優良従業員トシテ三菱美唄鑛業所ヨリ表彰セララル

炭鑛其他ノ公職

一、昭和十年一月 三菱美唄健康保險組合議員ニ當選同十二年二月任期満了ス
一、昭和十五年二月 三菱美唄協和會代議員ニ當選次イテ同會理事ニ就任現在ニ至ル
一、自昭和十四年十一月 三菱美唄鑛業所火防衛生伍長ヲ二期ニ亘ニ任セララル
一、至昭和十五年十二月

一、昭和十二年七月 三菱美唄礦業所第三坑自強團設立ト共ニ同會委員ニ舉ケラレ現在ニ至ル

一、昭和十五年二月 三菱美唄礦業所勞務者納稅組合委員ニ任セラレ主ナル表彰狀其他ノ寫左ノ如シ

勤 績 狀

鳴 海 勝 治

右ハ滿七ケ年間勤績セリ依テ金一封ヲ授テ之ヲ表彰ス
大正十二年五月十二日

勤 績 狀

鳴 海 勝 治

右ハ滿十五ケ年間勤績セリ依テ金一封ヲ授テ之ヲ表彰ス
昭和三年五月十二日

勤 績 狀

鳴 海 勝 治

鳴 海 勝 治

右ハ滿二十ケ年間勤績セリ依テ金一封ヲ授テ之ヲ表彰ス
昭和十年五月十二日

鳴 海 勝 治

表 彰 狀

第三坑仕線夫

鳴 海 勝 治

資性温厚多年業ニ精勵シ技術優秀ニシテ後輩ヲ指導誘掖シ又克ク公共事業ニ獻身努力スルハ他ノ模範タルヘキモノト認ム

仍テ茲ニ記念品ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和十五年五月十二日

鳴 海 勝 治

三菱礦業株式會社美唄礦業所

三菱美唄礦業所
仕 繰 夫 吉 野 萬 龜 春 君

一、表彰事績の概要

- 一、大正四年十月發所採炭夫として採用せられ大正九年四月仕繰夫に轉ず。資性温厚にして不屈不撓の信念を抱き名利を顧みず孜々として精勵すること滿二十五年五ヶ月に及び其の間肉親に接するが如き慈愛の念を以て不倦同僚後輩の指導誘掖に當り、既に君が薰陶を受けし當時の青年は今日殆ど係員に昇進し居れる状態なり。
- 二、既に技能人格共に圓熟の域に達し、至誠以て業務に精勵、坑内作業の第一人者として自ら卒先窮行難局に赴くの犠牲的精神を發揮し、而して豊富なる體驗と優秀なる技能を實地に活用、他人の追従を許さざる活動を示顯し、一般に深く敬慕せらる。
- 三、殊に其の高潔なる人格と獻身的奉仕の熱意とは常に部落改善事業の推進力となり、目下協和會代議員、火防衛生伍長、警防團々員、隣保班長、家庭防火群々長等の要職に在り、夫人は國防婦人會班長、佛教婦人會幹事、長女亦女子青年團幹事として一家擧げて公共事業に當り家庭頗る圓滿にして近隣の羨望景仰の的なり。

て近隣の羨望景仰の的なり。

二、履歴の概要

本籍地 北海道空知郡美唄町字美唄二、〇六〇
 現住所 北海道空知郡美唄町字美唄二、〇六〇
 仕 繰 夫 吉 野 萬 龜 春
 明治二十五年二月九日生

學 歴

一、明治三十六年三月 下徳富尋常小學校卒業

職 歴

- 一、自明治三十六年三月至同四十五年七月 北海道樺戸郡新十津川村ニテ農業
- 一、自明治四十五年七月至大正四年十月 北海道増毛郡増毛町字暑寒ニテ農業
- 一、大正四年十月 三菱美唄炭山採炭夫及仕繰夫

賞 罰

一、大正十四年五月 三菱美唄礦業所ヨリ滿十ヶ年勤績表彰セララル

- 一、昭和六年五月 同右 滿十五ヶ年勤績表彰セラル
- 一、昭和十一年五月 同右 滿二十ヶ年勤績表彰セラル
- 一、昭和十四年五月 三菱美唄健康保險組合ヨリ健康表彰セラル

炭礦其ノ他公職

- 一、昭和十一年一月 火防衛生伍長任命
- 一、昭和十四年四月 警防團々員任命
- 一、昭和十五年二月 三菱美唄協和會代議員ニ當選現在ニ至ル
- 一、昭和十五年二月 三菱美唄礦業所勞務者納稅組合委員ニ任セラル
- 一、昭和十六年二月 隣保班長ニ任セラル

主ナル表彰狀其他ノ寫左ノ如シ

勤績狀

吉野萬龜春

右ハ滿十ヶ年間勤績セリ依テ金一封ヲ授テ之ヲ表彰ス
大正十五年五月十二日

三菱礦業株式會社美唄礦業所

勤績狀

吉野萬龜春

右ハ滿十五ヶ年間勤績セリ依テ金一封ヲ授テ之ヲ表彰ス
昭和六年五月十二日

三菱礦業株式會社美唄礦業所

勤績狀

吉野萬龜春

右ハ滿二十ヶ年間勤績セリ依テ金一封ヲ授テ之ヲ表彰ス
昭和十一年五月十二日

三菱礦業株式會社美唄礦業所

吉野萬龜春

宮ノ下火防衛生伍長

昭和十二年一月

三菱礦業株式會社美唄礦業所

吉野萬龜春

三菱美唄警防團警防員ヲ命ス

昭和十四年四月一日

美唄警察署

表彰状

吉野萬龜春

昭和十三年中特ニ保健ニ努メ克ク健康ヲ保持セラレタリ仍テ茲ニ記念品ヲ贈呈シ之ヲ表彰ス

昭和十四年五月十二日

三菱美唄健康保險組合理事長

藤井賢造

茂尼炭礦
採炭夫 仲宗根幸得君

一、表彰事績の概要

性 行

資性温厚にして穩健着實不撓不屈の信念を抱き名利を顧みず犠牲的精神旺盛にして衆の敬服欽慕の的たり。家庭に於ては多數の家族を擁すれども極めて圓滿にして近隣の風評良好洵に現時非常時局に處する優秀なる産業戦士なり。

事 績

一、善行者として衆人の模範とすべきもの

大正十五年七月七日茂尻炭坑採炭夫として就職以來誠實勤勉、技倆卓抜克く上司の命を遵奉し作業に熱意を有し態度亦眞摯にして只管多年の経験により獲たる熟練せる技能を傾け作業の改善工夫を怠らず、常に能く未経験者殊に半島人に對し熱誠指導誘掖に當り専ら能率増進に力を致しつゝあるを以て夙に上下の信頼篤く其の勤務振りは洵に衆の模範たり。殊に近時時局の進展に伴ひ石炭増産

を強調せらるゝや益々産業戦士たるの本分を自覺し、茂尻炭礦道洞坑採炭關係勞務者中の柱石として常に困難なる現場作業に挺身従事し協務一心克く實行を以て産業報國の赤誠を職場に示しつつある状態にして其の稼働成績たるや昭和十三年一月以降現在に至る三ヶ年の一ヶ月當り平均稼働日數二十五日の好成绩を現示しあるが如きは職場を守る崇高なる精神の發露の一端を示せるものと謂ふ可く町内に於ても卒先町内の融和協調銃後奉公に力を致しつつあり。

一、指導訓練に努め其の成績顯著なるもの

氏は又多年町内伍長及部落會（町内會組織前）理事、小學校後援會評議員等の町内公職に推任せられ火防衛生、教育等の公益事案に奉仕する外町内の親睦及町内民の幸福増進の爲に銳意風教の刷新生活の改善を計り寡黙實踐克く衆を啓發し美風を振作せるもの洵に多し。

一、變災に際し特に功績顯著なるもの

昭和十五年八月二十六日通洞坑中層群本片南三番層拂個所崩落の災害事故發生せるの報に接するや勤務終了出坑後にも拘らず同僚の身邊を案じ身體の疲勞も顧みず直に現場に引返し身を挺して救護隊に加はり敢然之が決死的救出作業に従事し終始獻身的行動を以て徹宵困難なる作業を完行し遂に同僚を救出し一命を取留めることを得たり。此の犠牲的行動は日頃の信念たる斃れて後已むの強き産業報國精神の顯現と謂ふ可く其の行爲に對し賞讃せざるものなし。右は比較的最近に於ける顯著

なるものに付き記せるも當礦十五ヶ年の永き坑内生活に於ては幾多の事故に遭遇せるも常に卒先身を以て難局を處理し一般従業員の強力なる推進力として果敢なる活動をなせるものにして其の事蹟枚舉に遑あらず。

一、産業報國運動並に安全運に對して功績顯著なるもの

昭和九年八月産業報國保安自治會の設立を見るや、委員に選任せられ爾來産業報國、災害防止の念を堅持し實行克く職場に披瀝せり。其の積極的行動は昭和十四年九月遂に衆の認むるところとなり通洞坑分會の分會長に推舉せらる、現在激務の傍ら一意無事故無災害、資源の愛護、一日一善運動の勵行責任出炭の確保無缺稼働行等會が現下時局重大性に即應して實施しつつある運動に對し不斷の努力を傾倒し居れり。他面業界の進展は多數の未経験者及半島人を收容するの現状を呈出し産業報國保安自治會の活躍就中幹部の獻身的指導を要望するの秋なるを以て益々職域奉公の念を固くし細心の指導と無災害能率増進に對し奮然努力を續けつゝあり。

二、履歴の概要

本籍地 沖繩縣國頭名護村字宮里二三四八番

現住所 北海道空知郡赤平村字茂尻炭礦新町一條一丁目二號一舍

探炭夫 仲 宗 根 幸 得

明治三十年五月七日生

學 歷

一、明治四十三年三月 沖繩縣國頭郡名護村尋常高等小學校尋常科卒業

職 歴

一、自明治四十三年四月 至大正四年七月 鹿兒島縣大島縣沖ノ家呂部島ニ於テ農業ニ從事

一、自大正四年八月 至大正十三年九月 大阪商船會社臺灣航路客船ノ船員トシテ勤務

一、自大正十三年十月 至大正十四年三月 茂尻炭礦ニ採炭夫トシテ勤務

一、自大正十四年三月 至大正十五年六月 上砂川三井砂川礦業所ニ採炭夫トシテ勤務

一、大正十五年七月 茂尻炭礦ニ採炭夫トシテ奉職爾來勤績十五年間現在ニ至ル

一、昭和九年五月 永年勤績竝ニ優良勞務者トシテ大倉礦業株式會社茂尻礦業所ヨリ表彰セラル

一、昭和十四年九月 產業報國保安自治會ニ於テ其ノ行爲模範積極的ナルヲ以テ通洞坑分會長ニ推舉セラレ爾來今日ニ至ル迄通洞坑分會長ニ就任

一、昭和十五年九月 雄別炭礦鐵道株式會社茂尻礦業所ヨリ滿五ヶ年勤績竝ニ模範勞務者トシテ表彰セララル

シテ表彰セララル

一、昭和十五年九月 變災ニ對スル功績顯著ナルヲ以テ茂尻礦業所ヨリ表彰セララル

一、昭和十六年一月 赤平村第五區町内會聯合會旭、新町々内會第八聯合隣保班長ニ選任セラレ爾來町内會及產業報國ノ爲翼賛會員ノ一翼トシテ臣道實踐ニ邁進シツツアリ

シツツアリ

一、昭和十六年二月 半島人ニ對スル熱誠ナル指導及協和事業ノ達成ニ盡瘁シ瀧川警察署協和會長ヨリ表彰セララル

三井砂川鑛業所

採炭夫 平賀竹次郎君

一、表彰事績の概要

本人は大正十一年六月砂川鑛業所に採用、第一坑に勤務し爾來十五年間常に温厚着實克く後進を指導し、終始採炭夫として其の職務に邁進し責任觀念強く採炭場の崩落等の場合は率先して復舊に努め採炭及支柱の技術特に優秀にして難事に遭遇するも沈着なるは推賞するに足る、現在は主として新入者の指導に當り各採炭場の不良箇所の修繕に従ひ採炭に支障なからしむる準備作業に従事なり第一坑急傾斜採炭法改善に功績あり。

一、變災に際し特に功績顯著なる事項

- 1 大正末期より昭和初期にかけて發生せし第一坑坑内自然發火には必ず出動獻身的に努力せり。
- 2 昭和三年太平洋炭礦春採坑坑内火災に出動消火作業に従事す。
- 3 昭和七年九月幌別鑛山坑内火災に出動消火作業に従事。
- 4 昭和八年十二月 同 右

5 昭和十一年一月當三井砂川鑛業所第二坑變災には最後の復舊作業完成迄無缺勤にて努力す。

二、要約

要之其の温厚なる性格と優秀なる技術と旺盛なる責任觀を以て上司の命によく従ひ後進を誘掖指導し常に進んで難事に當りて倦むことなく上下の信望厚く家庭に於ても近隣の風評頗る良きは一般の模範とするに足る。

二、履歴の概要

本籍地 岩手縣稗貫郡太田村字姥澤
 現住所 北海道空知郡砂川町字上砂川
 三井砂川鑛業所

採炭夫 平賀竹次郎

明治二十九年二月四日生

學歴

一、明治三十八年三月 岩手縣稗貫郡太田村太田尋常高等小學校尋常科第二學年修了

職業

- 一、自大正十九年六月
至同二十年十月
自大正十一年五月
至同十一年六月
- 北海道十勝郡浦幌炭礦採炭夫ニ從事
- 北海道釧路郡太平洋炭礦株式會社春採礦採炭夫ニ從事
- 三井砂川鑛業所採炭夫ニ從事現在ニ至ル

團體役員

- 一、三井砂川鑛業所第一坑現場懇談會委員 數回
- 二、右 同 保安自治團支部委員 數回
- 三、三井砂川鑛業所救護隊員 十二年勤績

昭和十六年五月十五日印刷
昭和十六年五月二十日發行

發行人 東京市京橋區木挽町八丁目一九番地
社団法人 **日本鑛山協會**

振替口座東京七八〇七八番

大庭千代麿

印刷人 東京市京橋區新富町一丁目七番地三
石井精一郎

東京市京橋區新富町一丁目七番地三

印刷所 安信舍印刷所

電話築地(55) 三四九四番
三四九五番

412
275

終

